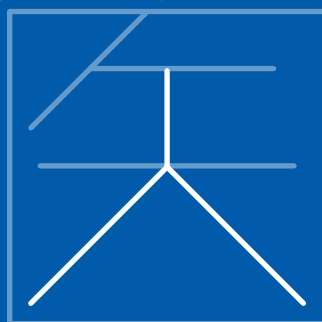
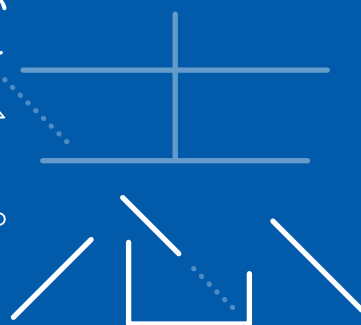




愛知医科大学 医学部



人を見る。心を見る。



AICHI MEDICAL UNIVERSITY SCHOOL OF MEDICINE 2024

少子高齢化の急速な進行や医療技術の進歩、
医療提供の場の多様化など、
現在、医療を取り巻く環境は著しく変化しています。
そうした中、2022年に創立50周年を迎えた愛知医科大学では、
時代の先を見据えた様々な取り組みを積極的に推進。
学是「具眼考究」のもと、
高度で先進的な知識・技術の修得に留まらず、
ヒューマニズムに徹することのできる
「情緒と品格を備えた医療人」の育成に力を注いでいます。

これまでの50年から、さらに次の50年に向けて。
どんなに社会や時代が変わっても、
どんなに医療技術が進んでも、
人に、心に寄り添う医療の大切さは変わりません。

人をみる。心をみる。

医志



学是 具眼考究

「具眼」とは、江戸中期の画家で近年脚光を浴びている伊藤若冲の言葉として知られていますが、「確かな眼」、「見通す眼」、「眼力」、「慧眼」といった意味であり、医学的には「正しくみる」ことを意味します。「みる」とは「診る」、「看る」、「見る」、「観る」、「視る」のすべてを含み、個々の患者の正確な病態とともに生物学的、心理学的、経済的、社会的なすべての視点に立った包括的、全人的に患者を把握する感性を意味します。さらに卓越した研究・教育それに大学の正しい未来の方向性の洞察には「具眼」が必要です。「考究」とは、「具眼」によって得た神髄を深く考え、それに対して正しく対処して究めることを指します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学医学部のカリキュラムを修得し、卒業時に求められる能力を身につけることができる者として、次の能力を持つ者を求めています。

【求める学生像】

- 1 医学への強い志向と学習意欲を持つ人
- 2 医学を学ぶために必要な基礎学力と問題解決能力を備えた人
- 3 人間性と教養が豊かで、倫理的価値判断に優れた人
- 4 協調性を持ちコミュニケーション能力に富んだ人
- 5 誠実で常に努力を怠らない人

本学医学部が求める学生を受け入れるための入学者選抜は、次の方針により実施します。

- 1 医学部の学生として相応しい基礎的学力の到達度を確保するため、理科・数学・英語の筆記試験を実施します。
- 2 医師として求められる倫理的価値判断、感性、コミュニケーション能力などを判断するため、面接試験および小論文試験を実施します。

本学医学部の学生は、医師国家試験の合格という大きな目標の達成だけでなく、医師に相応しい教養や感性（情緒と品格）を持つことが求められます。入学者の選抜においては、基礎的学力のみでなく、思考力・表現力・学ぶ意欲・コミュニケーション能力なども重視します。また多様な学生の受け入れのため、一般選抜のほかに国際バカロレア選抜など多様な入学者選抜を実施します。

Contents

- 01 医志 人をみる。心をみる。
- 03 理事長・学長メッセージ
- 04 副学長・医学部長メッセージ／沿革
- 05 未来をみる
進化する愛知医科大学
- 07 世界をみる
グローバルな医療人を育成するために
- 08 医療の次をみる
医療の最前線で活躍する卒業生
- 09 愛知医科大学の特色
- 11 初年次教育
- 13 臨床教育
- 15 充実の学生指導・支援体制
- 17 愛知医科大学病院
- 19 愛知医科大学メディカルセンター
- 20 愛知医科大学眼科クリニックMiRAI
- 21 わたしたちの、医志
- 23 教育カリキュラム
- 25 愛知医科大学の6年間
- 27 1学年次カリキュラム
- 28 2学年次カリキュラム
- 29 3学年次カリキュラム
- 30 4学年次カリキュラム
- 31 5学年次カリキュラム
- 32 6学年次カリキュラム
- 33 医師国家試験に向けて
- 34 大学院医学研究科
- 35 国際交流
- 37 学修施設
- 39 キャンパスライフ
キャンパスカレンダー
- 40 キャンパスマップ
- 41 クラブ&サークル
- 43 マイキャンパスライフ
- 45 エリアインフォメーション



未来をひらく新しい医科大学を目指して

築き上げてきた 愛知医科大学の50年

1972年に建学された愛知医科大学は、2022年に創立50周年を迎えました。1980年度に大学院医学研究科、2000年度に看護学部、2004年度には大学院看護学研究科が設置され、現在は2学部・2大学院研究科体制で教育・研究活動を進めています。

愛知医科大学は「良き医療人を育てて地域社会に奉仕する」という建学の精神のもと、「社会から評価され、選ばれる医科大学」となることを目指して努力を積み重ねてきました。優れた指導スタッフによる充実した教育、臨床、研究活動に加え、ドクターヘリなど本学ならではの特色

を打ち出す独自分野の構築にも積極的に取り組んでいます。

これまでの医学部卒業生は4,644名で、そのうち4,608名(99.2%)が医師として地域医療に貢献しています。また、看護学部の卒業生総数は2,090名で、全国の病院などで看護師・保健師として活躍しています。

新たな未来への挑戦を続ける 愛知医科大学

愛知医科大学では、次代を見据えた新病院を中心とするキャンパス施設の再開発が2018年に完了し、現在大学機能のさらなるステージアップを実現するべく、学内を挙げて救急医療改革、地域医療連携推進、診療・働き方改革、研究基盤整備、学修環境改革などの新たなシステム

再構築を進めているところです。

さらに2021年4月には愛知県西三河地域の医療を支える総合病院として「愛知医科大学メディカルセンター(分院)」を、2022年7月には「愛知医科大学眼科クリニックMiRAI」を開院し、地域医療の拠点、先進診療・研究拠点としての活動もスタートしました。

現在の医学は大変なスピードで進化を続けると共に、医療を取り巻く環境も急激に変化しています。より充実した医学教育環境を構築し、時代の変貌を見据え支える、次世代の人材育成を大切な使命として、さらなる進化を続けていきたいと考えています。

時代を先取り、人に優しい医療人を育成

今後数年の間に医療を取り巻く環境は激変します。すでに地域医療構想などの新しい医療の在り様はもちろん、AIによる放射線画像診断補助、ICTを用いた診療DXなど情報通信技術の導入が始まっています。さらに生体融合デバイス、臓器再生など理工学との融合が医療現場に登場する日も近いでしょう。一方、超高齢社会において複数の疾患を合わせ持つ患者の総合的診療や複雑化した社会の中で悩みを抱える人々への寄り添いなど、医師に求められる基本能力自体も日々多様化、高度化しています。

こうした中、本学は建学以来、社会の要請に応えるべく常に変化し発展し続けてきました。学術研究部門として、超高齢社会の到来を見越した1983年の加齢医科学研究所に始まり、難病に対する新規治療法の社会実装を目指す神経iPS細胞研究部門や、社会医科学的見地から大規模災害への対応を向上させる災害医療研究センターなどを開設してきました。診療部門の中心である愛知医科大学病院は高度先進医療を地域に提供すると共に、県内でいち早く高度救命救急センターにドクターヘリを配備しました。さらに

今年度からは、県内大学病院では唯一、重症外傷センター試行病院に指定され、重症外傷患者の救命の拠点として期待されています。臨床各科のロボット支援手術やハイブリッド手術はもちろん、血管内治療・神経内視鏡を用いた低侵襲脳外科治療や複雑な痛みに対処する疼痛医学講座など、多くの教員が先端的な研究知見あるいはユニークな医療を実践しており、その成果を日々学生教育に還元しています。

加えて、学生の希望や意見を反映しながら医心館セミナー室の拡充や学生ホール、レストランの改修などにも積極的に取り組んできました。全国住みやすさランキングトップクラスの長久手市にあり、立石池周囲の緑あふれる美しい環境の下、本学での学生生活は知的興奮に溢れ青春を謳歌できる素晴らしいものになるでしょう。

社会構造や情報技術が変わっても、医療の根源にあるのはヒューマニズムや医療人としてのプロフェッショナリズムです。本学は知識や技術修得に留まらず、これからの社会、地域を支える「人に優しい医療人」の育成を進めていきます。



沿革

- 1971●12.25 愛知医科大学(医学部医学科)設置認可
- 1972●4.11 医学部第1回入学式
- 1974●5.30 新附属病院使用許可
 - 9.9 高等看護学院設置認可(1976.9.20 看護専門学校に改称)
- 1979●7.1 附属病院救命救急センター開設
- 1980●3.26 大学院医学研究科設置認可
- 1981●4.23 情報処理センター設置
- 1983●4.1 加齢医科学研究所設置
 - 4.20 メディカルクリニック開設許可
 - 12.21 附属動物実験施設設置(1988.4.1 動物実験センターに改称)
- 1987●10.1 運動療育センター設置
- 1988●4.1 視覚教材センター設置
核医学センター設置
研究機器センター設置
分子医科学研究所設置
- 1993●6.16 産業保健科学センター設置
- 1999●12.22 看護学部看護学科設置認可
- 2001●6.16 薬毒物分析センター設置
- 2002●1.1 学際的痛みセンター設置
 - 4.26 看護専門学校廃止認可
- 2003●11.27 大学院看護学研究科設置認可
- 2004●4.1 医学教育センター設置
- 2008●4.1 総合医学研究機構設置
臨床試験センター設置
看護実践研究センター設置
- 2010●4.1 総合医学研究機構改組(動物実験センター、核医学センター、研究機器センター、臨床試験センターを同機構の部門として統合)
- 2012●1.4 長久手市市制施行に伴う
本法人所在地地名の変更(愛知県長久手市岩作雁又1番地1)
 - 4.1 先端医学研究センター設置
- 2014●4.23 新病院(中央棟)使用許可
 - 11.1 災害医療研究センター設置
- 2015●4.1 国際交流センター設置
シミュレーションセンター設置
- 2016●4.1 先端医学研究センター廃止
研究創出支援センター設置
- 2017●4.1 医学情報センター(図書館)廃止
情報処理センター廃止
総合学術情報センター設置
- 2021●3.18 メディカルセンター使用許可
- 2022●6.1 メディカルクリニックを
眼科クリニックMIRAIと改称
- 2022●7.1 学際的痛みセンター廃止

未来をみる

進化する愛知医科大学

2022年に創立50周年を迎えた愛知医科大学では、次の50年を見据え、教育・研究・診療のさらなる充実を図るための取り組みを積極的に進めています。

メディカルセンター開設

2021年4月、愛知県岡崎市に愛知医科大学メディカルセンターを開設。二次救急から慢性期まで、幅広い患者さんを対象に質の高い医療を提供します。また、若い医師を育てる「教育病院」としての機能も充実させていく予定です。

→ 詳しくはP19



眼科クリニックMiRAI開設

名古屋市東区の愛知医科大学メディカルクリニックは、開設から38年を迎えて総合的な診療体制などの抜本的な見直しを推進。2022年7月、眼科先端医療の臨床・研究拠点として生まれ変わりました。

→ 詳しくはP20



連携大学院方式の導入及び 日本造血細胞移植 データセンター移転・開設

2021年4月、愛知医科大学と一般社団法人日本造血細胞移植データセンター（JDCHCT）との間で連携・協力に関する協定書を締結し、連携大学院「造血細胞移植・細胞治療情報管理学連携講座」を設置。2022年1月には、日本造血細胞移植データセンターを本学2号館に移転・開設しました。



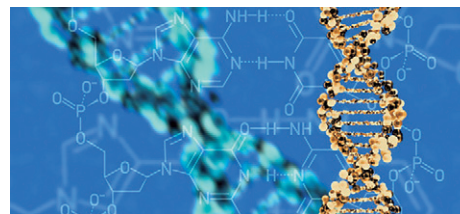
リハビリテーション 医療の充実

超高齢社会におけるリハビリテーション医療の社会的ニーズに応えるため、2021年7月にリハビリテーション医学講座を開設。生活機能と障害の診断、治療技術において基礎から最新技術に至るまでの実践医療・教育に取り組んでいます。



がん医療の推進

2019年10月に「がんセンター」を設置。大学病院内にある多数のがん診療部門を統括する横断的な組織として、診療科の枠を超えた多職種での連携やサポートを行うことで、がん患者さんの受け入れを推進していきます。





医心館セミナー室・学生ホール拡充

国家試験合格に向けてグループ学習をするための医心館セミナー室と、本館学生ホールを拡充。さらなる学修環境の向上に取り組んでいます。

➡ 詳しくはP38



レストラン「オレンジ」のリニューアル

ガラス張りの明るく開放的な雰囲気のレストラン「オレンジ」。これまでは主に学生の食事や憩いの場でしたが、今後、食事以外の時間は自習の場としても活用できるよう大規模な改修工事を行いました。



スターバックスコーヒーのオープン

2022年9月、スターバックスコーヒー愛知医科大学店がオープン。立石池やその周辺に広がる四季折々の風景を眺めながら、学生や教職員、さらに地域の方々の交流や憩いの場として幅広い利用を目指しています。



看護学研究科 博士課程設置構想

博士課程（PhDコース及びDNPコース: Doctor of Nursing Practice）を設置し、看護学分野の研究者や高度な看護実践を行う診療看護師や専門看護師の指導者を養成します。日本でも数少ないDNPの養成に挑むことで、我が国における高度看護実践のトップランナーを目指します。



先進医療 研究棟構想

「世界を見据えた教育・研究活動の充実と発展」「診療・研究・教育を担う卓越した人材の育成」「地域医療・地域貢献の促進」などの5つの目標を掲げ、その実現に向けたプロジェクトを発足させていきます。



グローバルな医療人を 育成するために

愛知医科大学では、国際バカロレア選抜や国際交流プログラムなど、国際化・多様化する世界を見据えた制度やプログラムを積極的に導入しています。

【国際バカロレア選抜】

本学医学部では、2017年度から「国際バカロレア選抜」を導入。全国の私立医科大学に先駆けて、国際バカロレア (IB : International Baccalaureate) 資格を取得した学生を積極的に受け入れています。



学生Message

将来は海外で活躍できる医師になりたいです

1学年次 矢尾 夏大 (静岡県 加藤学園暁秀高校出身)

本学部では早期から「国際バカロレア選抜」を取り入れているため、自分が今までIBで学んできたことを評価していただけたと思います。入学を決めました。また、地域の救急医療・災害医療に力を入れていることも決め手の一つになりました。入学早々に行われた「解剖見学実習」を経験して、基礎医学をいち早く自分のものにしたい、もっと勉強したいという意欲が高まりました。将来は救急医として、海外で活躍したいと考えています。

【国際交流プログラム】

グローバルな視野を持った医療人の育成を目指して、7カ国10大学と学術国際交流協定を締結。国際交流プログラムを通して、世界各地の医療や医学教育の現場を体験できる機会を設けています。

学生Message 留学先:ポーランド ポズナン医科大学(PUMS)医学部

学びに対するモチベーションが高まりました

6学年次 菅村 恵利 (愛知県 愛知淑徳高校出身)

腫瘍学と腎臓内科にて4週間実習させていただきました。実習を通して、日本とポーランドとの医療制度や医学教育の違いを知ることができ、刺激のある時間を過ごすことができました。特に印象に残ったのはシミュレーションセンターです。施設内には、臨床さながらのトレーニングができる環境が整っており、ポーランドの学生の臨床能力の高さを感じました。と同時に、自分との差を感じ、私も多くのことを吸収しなければと、実習に対するモチベーションがさらに高まりました。



右から3人目



学生Message 留学先:タイ コンケン大学(KKU)医学部

毎日が濃密で、学びの多い4週間でした

6学年次 本美 朋華 (愛知県 南山高校出身)

私は地域医療や訪問診療に興味があったので、community medicineという科を選択し、地域医療、産業医学、家庭医療の3部門について学びました。また、訪問診療では、タイの人々の生活を実際に見ることで、日本との生活様式の違いや医療の提供の仕方の異なる部分を発見することができました。出発前は英語力や医学知識、東南アジアでの生活など様々なことに対して不安がありましたが、振り返ってみると1日1日が本当に濃密で楽しく学びの多い4週間でした。



医療の最前線で活躍する卒業生

今の医療を未来につなぐために。

医療のより良い次を見据えて、日々、最前線で活躍する卒業生を紹介します。

卒業生Message

意欲があれば必ずチャンスを与えてくれる大学です

愛知医科大学病院 卒後臨床研修センター 副センター長
講師 高橋 美裕希 (2007年卒業)

2007年に愛知医科大学を卒業後、初期臨床研修2年目の時に「基礎医学研究に組みたい」と強く思い、本学の大学院医学研究科に入学しました。後期臨床研修では血液内科に入局し、日中は病棟で診療を行いながら夜間は大学院の社会人学生として、どうして女性にだけ起こりやすい病気があるのかなど、病気が発生するメカニズムを解明するための研究に取り組みました。大学院修了後、2017年からは卒後臨床研修センターの副センター長に就任。2022年には日本で初めて医療者教育学修士の資格が取得できる岐阜大学大学院医学系研究科に入学し、今も診療及び研修医への指導を行いながら医療者教育の研究を行っています。



現在の職場である卒後臨床研修センターでは、研修医一人ひとりの多様な個性を尊重し、可能性を広げられるような教育を心がけています。そのために、大学院での研究のほか、国内外の学会や研修指導医サミットに積極的に参加するなど、常に世界の研修医教育を学びながら、世界で一流とされる教育から後れをとらないよう改革を続けています。この仕事のやりがいは、若い研修医が成長して指導医になっていく姿を直接見られることです。また研修医2年目の先輩が後輩の研修医・学生を指導するなど教え合う文化がだんだん定着しつつあることもやりがいにつながっています。



学生時代は、特に自己免疫疾患についての勉強に力を入れ、関連する論文を調べてものすごく読みました。そして、その分野で最も進んだ研究をしているのがアメリカのノースウエスタン大学ということがわかり、直接メールを送ったところ、「夏休みに遊びにおいで」と返事が。本学の先生方からも背中を押していただき、渡米しました。その後も研究のお手伝いをさせていただくなど貴重な経験ができ、自分が基礎医学に興味を持つ大きなきっかけになりました。

このように、本学は自分では思ってもいないような能力を発見できる可能性や機会が多い大学です。学生一人ひとりの意欲を応援しよう、若い人に夢を持たせようという本学の姿勢は、今でも変わることはありません。自分自身、この大学で様々なやりたいことを実現させてもらいましたので、これからは若い後輩達をしっかりサポートしていきたいと思っています。



愛知医科大学の特色

カリキュラムから国際交流、大学病院まで、あらゆる面で教育環境の充実に力を注いでいます。

生物学 教授 武内 恒成

1 医学教育

人が中心の医学教育

愛知医科大学医学部では1972年の開学以来、高度で先進的な知識や技術の修得に留まらず、ヒューマンズムに徹することのできる「情緒と品格を備えた医師」の育成を目指しています。

初年次教育

医学生としての意欲を高める初年次教育

入学直後から解剖学の講義をはじめ、後学期からは生理学、生化学を開講。早期から医学の専門領域の学びを開始することで医学への関心や学修意欲を高めます。またシミュレーション実習、看護体験実習、臨床科見学実習を順次実施し、医療人・医療のあり方を学びます。

⇒ P11



生理学講座 教授 佐藤 元彦



臨床教育

実践力を養う臨床教育を重視

4学年次の10月から「Student Doctor」として診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップA)を開始。より実習時間を増やすことで実践力を早期から養います。さらに「臨床実習入門」「基本手技・医療面接実習」といった準備教育も充実しています。

⇒ P13

学修環境

総合学術情報センターや医心館など学修環境が充実

総合学術情報センターには、図書館やマルチメディア教室などを設置。また、医心館や本館セミナー室には、グループ学習や個人学習ができるスペースを確保するなど、様々な面から学ぶ意欲をバックアップする施設・設備が整っています。

⇒ P37





5

学生指導・支援体制

学生生活を全面的にサポート

一人ひとりが心身共に健康で快適な学生生活を過ごせるよう、きめ細かな学生指導体制や様々な相談窓口を設けています。

⇒ P15



国際交流

6

7カ国10大学との国際交流

国際社会が求める医療改革への動きに的確に対応できる医師の育成を目指し、アメリカ、ドイツ、タイ、韓国、ポーランド、イラン、ウクライナの7カ国10大学への留学を支援しています。国際交流センターでは、留学生との交流や異文化理解を目的としたセミナーなども開催しています。

⇒ P35

大学病院

7

総合的かつ高度な
医療を学べる大学病院

愛知医科大学病院は、2014年に最新鋭の医療機器を導入した現在の病院を開院。中部地区屈指の大学病院として高度な医療を提供すると共に、学生にとって最先端の医療に触れられる学修の場として充実の教育環境を実現しています。

⇒ P17



ドクターヘリ

愛知県内でいち早く
ドクターヘリを配備

愛知医科大学病院の高度救命救急センターに、愛知県内でいち早くドクターヘリを配備。救急医療専門の医師や看護師が迅速に出動できる体制を整えています。

⇒ P18

卒業生

9

全国で活躍する
4,600名以上の卒業生

開学以来、すでに4,600名以上の卒業生が全国で医師として活躍しています。地方出身者も多く、卒業後の同窓生同士の協力体制や地元医師会との関係が強固であることも愛知医科大学の魅力の一つです。

⇒ P08

初年次教育



プロフェッショナリズム1a(看護学部との合同授業)

医学生としての意欲を高める初年次教育

時代が求める医療人を育成するための「プロフェッショナリズム1a・1b」をはじめ、1学年次から医学生としての自覚やモチベーションを高める講義や実習を積極的に導入しています。

プロフェッショナリズム

時代が求める医療人を育成するために、プロフェッショナリズム1a・1bを開講。「質の高い医療(保健・予防活動を含む)ができる医師」「コミュニケーション能力に優れた医師」「適切な意思決定のできる医師」「マネジメント能力に優れた医師」「地域社会のリーダーシップがとれる医師」の育成を目指しています。「プロフェッショナリズム」は、医師としての態度やモチベーションを高めるための科目として、4学年次まで段階的に開講しています。



医学教育センター 教授 早稲田 勝久

プロフェッショナリズム1a(医療人入門)

自らが将来どのような医学生・医師になりたいかをイメージすることで、初年次から学ぶ意欲を高める「プロフェッショナリズム1a(医療人入門)」を開講。多彩なプログラムを通して「(1)知的な運用能力としてのスタディスキル」、「(2)円滑な人間関係やコミュニケーションのためのソーシャルスキル」、「(3)科学的な理解のもとづく自己の心身の健康保持のためのライフスキル」といった3つのスキルを修得できるよう取り組んでいます。

プロフェッショナリズム1b

「プロフェッショナリズム1b」では、医師として必要となる多様な価値観や、診療に対する姿勢を理解すると共に、模擬患者さんへの医療面接、基本的な臨床の手法や知識を修得。シミュレーションセンターでの実習も行うなど、より実践的に学べる機会を増やしました。

多職種連携演習

2018年度からは看護学部などと連携し、多職種との繋がりを学ぶIPE(Interprofessional Education)を導入。初年次から多職種連携について理解を深める授業も積極的に実施しています。

行動科学

医療人は単に病気をみるのではなく、「人を見ること」が大切です。「行動科学」では、心理学や神経科学、精神科学などの多様な分野を通して、人間の心や行動を科学的に理解する力を1学年次から身につけます。2学年次以降は、健康増進・疾病予防や、社会と医学の関係を考察するなど、社会医学的な観点から理解を深められるよう、より内容の充実を図っています。

1学年次から医療人・医療のあり方を学べる実習を順次実施しています。

1学年次

早期体験実習

1学年次から臨床の現場を体験できるよう、多様な実習を導入しています。

1a(シミュレーション実習・コミュニケーション演習1)

グループ学習を通して、コミュニケーションやチーム活動、能動的学修の意義や基礎を理解します。早期から医療現場を体験するにあたり、様々な人、場面でのコミュニケーションについて考え、医学生としてふさわしいコミュニケーション方法を身につけます。

1b(看護体験実習)

病院は患者さんを中心にして、多数の医療スタッフが共同で仕事をしていることを理解し、多職種連携の病棟業務を体験することで、コミュニケーションの重要性、医師としての態度、今後必要な医学的知識・技能について確認します。



1c(臨床科見学実習)

臨床診療科・臨床医の指導のもとに医療を行う上での連携の理解を深めます。臨床医の患者さんへの対応や診断、検査などを体験し、早期に医師としての思考・人間性・倫理観を身につける契機とします。

2学年次

外来案内実習

初診や再診時に診療がどのように行われ、どのような受診に関わる手続きが行われているのかを、医療者ではなく患者さんの視点から学びます。将来、医師になった時に、患者さんの気持ちに寄り添えるよう、受診時の患者さんの思いについて学びます。



チーム医療実習

チーム医療の一員として参加し、医師や他職種の業務を体験。保健・医療・福祉・介護分野など患者さんに関わるすべての人々の

役割を理解し、相互の尊重のもとに適切な行動をとることの重要性を学びます。

地域社会医学実習

障がい者の介護や救急医療の現場、働く人々の実態を体験することで、医師になる者としての自覚を高めると共に、様々な人々の健康に関する悩みや苦しみを知り、地域社会における疾病予防、健康増進における医師の役割を理解します。

3学年次

地域包括ケア実習

高齢者や在宅での介護が必要な人々の生活を知り、どのように支援すれば良いのかを知るために、老人保健施設や訪問看護ステーションなどの業務を体験します。患者さんや家族の思い、多職種の役割を学ぶことで、チーム医療の実践を理解します。

4学年次

地域医療早期体験実習

大学病院以外の一般の地域医療機関において、どのような医療が実践されているのか、医師及び医療スタッフの業務を体験。実習を通してクリニカル・クラークシップでの地域医療への準備をすると共に、地域医療への学修意欲向上の契機とします。

Message



物事を、多面的に俯瞰できる視点をぜひ身につけてください

衛生学講座 教授 鈴木 孝太

皆さんが医学部に入学した時、まず身につけてほしいことは、一つの物事を多面的に見るという視点です。本学部の初年次教育では、医学とは何か、医師とは社会の中でどんな役割があるのかなど、医療や医師について俯瞰できる科目が充実しています。また大学の勉強は、「学びのストーリーを自分で語れること」が大切です。受験勉強のように、何でも憶えるという方法ではなく、例えば講義についても「今日はこの学びの全体像の中の、この部分を勉強しているんだ」という位置づけをしっかりと把握した上で取り組んでほしいと思います。

臨床教育



実践力を養う臨床教育を重視

4学年次の10月から「Student Doctor」として診療参加型臨床実習（クリニカル・クラークシップA）を開始。実際の医療の現場で、知識・技能・プロフェッショナリズムを修得します。

Student Doctor

4学年次の8～9月に医療系大学間共用試験（CBT, Pre-CC OSCE）を実施。合格すると「Student Doctor」として認定。「Student Doctor」は、診療チームの一員として患者さんやご家族と直接触れ合いながら臨床実習を行います。



診療参加型臨床実習 （クリニカル・クラークシップA）

4学年次10月から診療参加型臨床実習（クリニカル・クラークシップA（40週））を

実施。全診療科で満遍なく臨床実習を行い、広い領域の基盤的経験を養います。

診療参加型臨床実習 （クリニカル・クラークシップB）

5学年次後学期からは、クリニカル・クラークシップB（32週）を実施。各4週間8クルの拡充した臨床実習を重要な診療科で行い、さらに深い知識と高い技能習得を目指します。

学外実習

クリニカル・クラークシップBにおける学外実習では、本学の協定病院である学外44病院のほか、地域に密着した中小病院での地域医療実習も可能です。海外ではアメリカ・南イリノイ大学（SIU）医学部やタイ・コンケン大学（KKU）医学部、ポーランド・ウッチ医科大学（MUL）医学部など、学術

国際交流協定を締結している大学での臨床実習も可能で、実習単位を認定しています。多様な臨床現場を経験することで、医療人としての視野を広げられる機会を増やします。



より充実した臨床教育を行うための準備教育や施設が整っています。

シミュレーションセンター

臨床技能の修得及び向上を目的に、医学生ばかりでなく看護学生や研修医、スキルアップを目指す医師や看護師も利用できるシミュレーションセンターを開設。高機能の人体シミュレーターを用いた各種トレーニングや基本手技トレーニングなど、実践的な教育の場として低学年次から高学年次まで積極的に活用しています。2019年6月には、従来の470㎡から700㎡へとスペースを拡大するなど、よりいっそうの充実を図っています。

さらに2021年には、全国の医科大学に先駆けて最新の映像収録・配信システムを導入しました。L字型のプロジェクター投影面は、スクリーン仕様で全5面投影可能。授業の様子をビデオ撮影し、収録したアーカイブをeラーニング教材として利用するほか、zoomで映像配信を行うなど、2022年度から多様なスタイルで活用しています。ほかにも、より高機能のシミュレーターをはじめ各種機器を新たに導入するなど、臨床教育のための充実した環境を整えています。



コミュニケーション演習

主要な症候の診察に必要な知識を学修し、その内容を活かした模擬診察を実施。臨床の現場で求められる知識やコミュニケーション方法などを学びます。

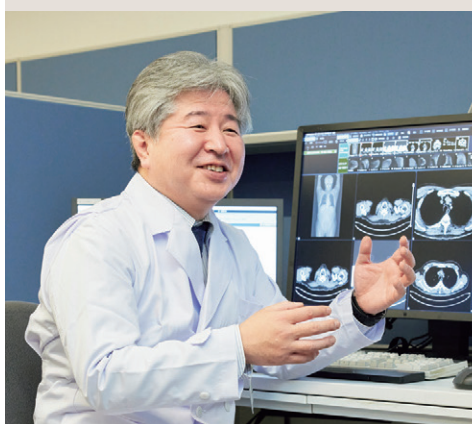
臨床実習入門

臨床実習を行うにあたって、診察の進め方やカルテの記載、患者さんへの説明など、臨床医学の基幹となるための診療技能を身につけます。

基本手技・医療面接実習

診療参加型臨床実習の基礎となる、診療の基本的技術、態度を修得。シミュレーションセンターの充実により、さらに中身の濃い内容を実現しています。

Message



患者さんの気持ちを理解できる 医師を目指してください

教務部長 放射線医学講座 教授 鈴木 耕次郎

本学部は、臨床に即した実践的な教育を行っていることが大きな特色です。診療参加型臨床実習では、専門的な知識や技術の修得はもちろん、患者さんへの接し方も含めてきめ細かく指導しています。また地域医療にも積極的に取り組み、学外実習では地域に密着した病院での実習も取り入れています。さらに基礎医学と臨床医学を統合して学べる講義を充実させ、各分野の横の繋がりを重視した教育を行っています。臨床現場での学びや経験を通して、「患者さんの気持ちを理解できる医師」を目指してほしいと思っています。

充実の学生指導・支援体制

一人ひとりが心身共に健康で快適な学生生活を過ごせるよう、きめ細かな学生指導体制や多様な相談窓口を設けています。

学生指導体制

本学部では、2022年度から「指導講座制度」を導入しました。1学年次については、授業を担当する基礎科学部門の教員が指導教員となり8～10名の学生を受け持ちます。指導教員は、出席状況や学業成績に関する個別相談など、学生生活に関する指導や助言を行います。2学年次に進級する段階で、学生の希望をもとに基礎医学部門及び臨床医学部門の講座に配置され、各講座の教員が引き続き指導・助言を行います。2学年次から6学年次までの学生を受け持ちますので、同じ分野に関心を持つ学生の学年を越えた交流も図れます。

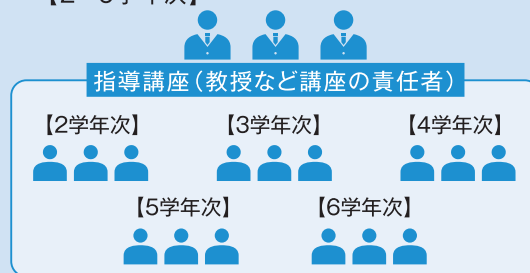


指導講座制度

【1学年次】



【2～6学年次】



研究活動奨励制度

本学では、学生が学会等で研究活動の成果を発表する際、会場までの交通費や宿泊費を大学から支給しています。これは「学生の研究活動を奨励する」本学の特徴的な制度です。また、研究発表の内容が優秀であると認められた、あるいは英文による学術論文を発表したなどの優れた研究業績を挙げた場合は、大学から表彰されます。



Message

目指す医師像に向けて 充実した学生生活を送ってください

学生部長 感染・免疫学講座 教授 高村 祥子

本学部では、昨年度から「指導講座制度」を新たに導入しました。2学年次以降は自分が興味のある講座に所属して、教員による指導を受けますので、一人ひとりが目指したい医師像を考える上でも可能性が広がる支援体制だと思います。ほかにも本学部では心身共に健康で快適な大学生活を支えるための様々な制度が充実しています。学生の皆さんは目指す医師像に向けて、ぶれることなく充実した毎日を送ってほしいと思います。教職員一同、そのための指導や支援は惜しみません。

学生支援体制

学生相談室

長い学生生活の中で悩みや課題が生じた時は、気軽に学生相談室を利用してください。「こんなこと恥ずかしくて」「どうせ他人に話してもしょうがない」と、ためらう人もいるかもしれませんが、言葉に出して人に話すことが役立つ場合もあります。本学では、臨床心理士・公認心理師の資格を持った専門のカウンセラーが相談に応じています。

例えばこんな時に

自分の性格や学業などの能力について悩みがある

もっと充実した学生生活を送りたい

ゆっくり考えるほっとする時間がほしい

話をするのに非常に苦労したり、
気分の浮き沈みがひどい

家族のことで悩んでいる

対人関係
(友人、先輩、後輩、恋愛など)で悩んでいる

退学・休学を考えている

……など

キャンパスハラスメント

大学における人間関係は、自由で平等な関係が保証され、互いに相手を尊重し合うことが基盤となっています。ハラスメント(セクシャル・ハラスメント及びその他のハラスメント)は、個人の人權を侵害するものであり、いかなる場合も許されるものではありません。

本学ではハラスメントのない快適な環境でキャンパスライフを送れるよう、ハラスメントに関する相談窓口を設置しています。

愛知医科大学病院での受診

愛知医科大学病院で診療を受ける場合、減免申請書を提出することで医療費などの減免を受けることができます。

保健管理センター

本学には「保健管理センター」を設置しており、専門スタッフ(看護師)を配置しています。健康相談・指導や軽症者に対する応急処置、受診指導などを行っています。

意見箱「学生の声」

学生の皆さんの意見や悩みなどを大学へ伝えやすくし、一人ひとりが快適な学生生活を過ごせる大学にしたいため、キャンパス内に意見箱「学生の声」を設置しています。

また、意見箱に直接投書できない場合でも、パソコンやスマートフォンから投書できる「電子目安箱」も開設しています。



Message

快適な学生生活を過ごすために 気軽に相談してください

学生相談室主任 心理学 教授 宮本 淳

学生相談室では臨床心理士・公認心理師の資格を持った専門カウンセラーのほか、愛知医科大学病院の「こころのケアセンター」の臨床心理士も相談やカウンセリングに応じるなど、サポート体制が充実しています。ほかにも本学を卒業した先輩医師が、学生生活や実習、進路選択などの悩みにアドバイスを行う体制が整っていることも特色の一つだと思います。時には悩みを言葉に出して話すことが、自分の成長や前に進むための力になります。一人で悩まず、気軽に相談してみてください。

愛知医科大学病院



大学病院の特色

愛知医科大学病院は、最新鋭の医療機器を導入し、36の診療科を有する、ベッド数900床の中部地区屈指の大学病院として、総合的かつ高度な医療を提供しています。大学病院は医学生にとって診察・手術の見学や症例検討などを行う大切な学修の場であり、充実した教育環境を実現しています。さらに大学卒業後の臨床研修では卒後臨床研修センターが核となり、研修医の育成・教育を、病院スタッフが総合的にサポートしています。



より充実した教育環境を実現しています

多臓器疾患に対応できる、総合的な診療力を育成

超高齢社会においては、一人で多くの病気を抱えた高齢者が急増し、従来の臓器別・疾患別に特化した高度医療だけでは対応が困難になってきます。そのため、今後は多臓器にわたる複合疾患に対し、いかに適切な医療を提供していくかについて大学教育の段階から学ぶ必要があります。愛知医科大学病院ではプライマリケアセンターなどにより、臓器別・疾患別の枠を超えた総合的な視点を持つ総合診療医の育成に積極的に取り組んでいます。

一次から三次救急まで、幅広い診断能力を修得

高度救命救急センターでありドクターヘリの基地病院でもある愛知医科大学病院は、より重篤な救急患者さんへの対応力が身につくと共に、一次・二次救急を担うプライマリケアセンターが拡大整備されることで、一次から三次救急まで幅広い疾患についても学ぶことが可能です。さらに、近年注目されつつある放射性医薬品による治療と診断に最適な「半導体SPECT-CT装置」を東海地区で初めて導入。高度急性期医療を担う特定機能病院として専門分野を深く学べることはもちろん、広範な診断能力を修得できる環境が整っています。

高い効果を生み出す、教育用電子カルテ

大学病院では医師が入力する各科専用電子カルテを教育システムとしても活用できるよう整備を進めています。これが本格的に稼働すると本学の医学生、看護学生、研修医は専門医の診療経過を後追いし、典型的な疾患の診療内容について学ぶことができるようになります。さらに特殊な疾患を含む様々な症例に対する専門医の思考過程の記録は、貴重な診断ガイドとして高い教育効果を生み出すことが期待されています。



総合的かつ高度な医療を提供しています

高度救命救急センター

本センターの役割は、関連医療機関との密接な連携によって一次・二次救急医療機関をバックアップする三次救急医療施設として、地域の重症患者に対して救急医療を提供することにあります。センター開設は1979年。ほかの医科大学・医学部に先駆けて設置し、地域に貢献してきました。1996年には、中部地区で初めて「指肢切断」「急性中毒」「広範囲熱傷」など特定の救急疾患に対して専門的に

治療を施すことができる「高度救命救急センター」として認定され、1998年には、三次救急専用の救急蘇生外傷治療室の増設、画像診断装置の増設を行いました。また2002年からはドクターヘリ事業も開始。さらに2006年には基幹災害拠点病院の指定を受けるなど、ますます充実した内容のセンターとして地域の期待がさらに高まっています。

ドクターヘリ

高度救命救急センターに、救急医療対応（ER）型ヘリコプターが常時待機し、主に消防機関からの要請を受けて、救急医療専門の医師・看護師が迅速に出動できる体制を整えています。現在の活動範囲は、愛知医科大学病院から半径70km圏内が中心ですが、大災害発生時にはヘリコプターの機動性を如何なく発揮できるよう隣接各県（岐阜・三重・静岡・長野）のドクターヘリとも連携を図りながら、即応可能な体制を構築することとしています。

愛知医科大学 メディカルセンター

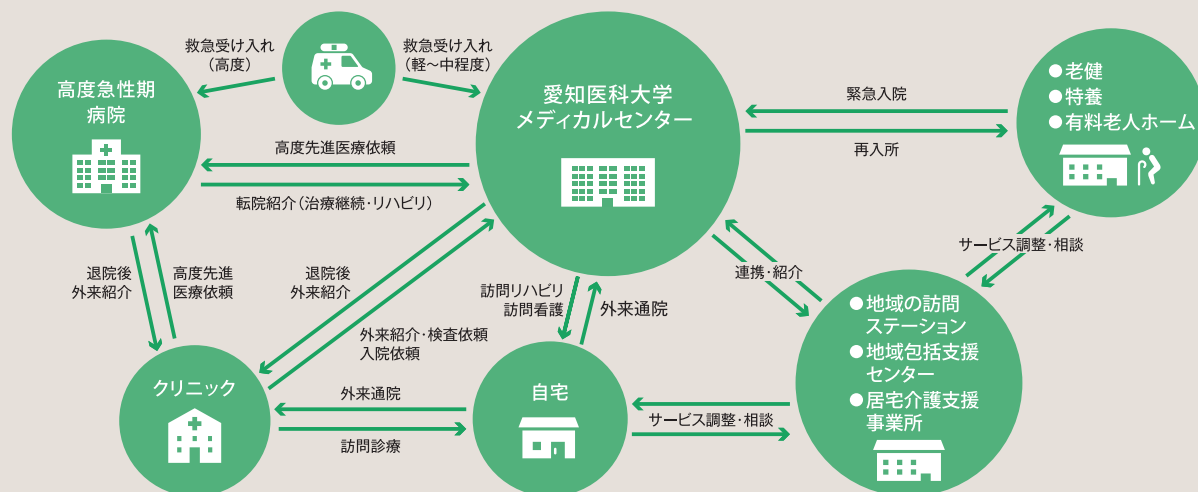


地域多機能病院として地域に密着した医療を提供します

2021年4月、高度急性期を担う愛知医科大学病院に加え、岡崎市北部に愛知医科大学メディカルセンターを開設しました。本センターでは、岡崎市、豊田市をはじめとする周辺の医療機関と共に、二次救急から慢性期に至るまでの幅広い患者さんを受け入れています。また、大学分院ならではの質の高い医療だけでなく、診療科の枠を超えて患者さん一人ひとりに寄り添った医療を提供します。急性期一般病棟、回復期リハビリテーション病棟、医療療養型病棟に加え、腎臓病センター、訪問看護ステーション、通所リハビリテーション等多くの機能をもつ「地域多機能病院」として様々な役割を果たし、地域の信頼に応える中核病院を目指しています。

地域と共に生きる中核病院として

～近隣医療機関と連携し自分らしい生活を医療面から支えます～



愛知医科大学 眼科クリニックMiRAI



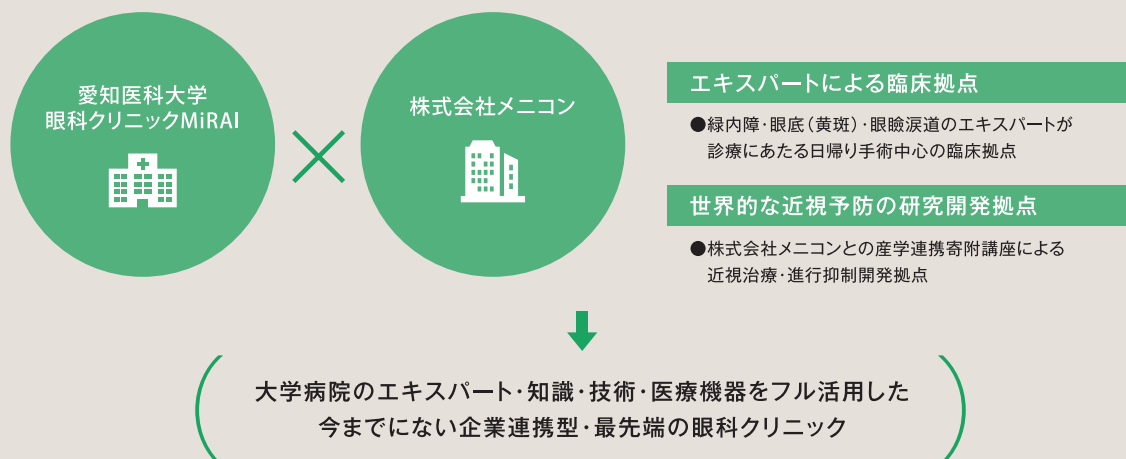
眼科先端医療の臨床・研究拠点を目指して

開設から38年を迎えた名古屋市東区の愛知医科大学メディカルクリニックは、総合的な診療体制などの抜本的な見直しを行い、2022年7月、株式会社メニコンとの産学連携寄附講座（近視進行抑制）と眼科日帰り手術ラボの設置を中心とした、時代が求める治療・開発・臨床研究の拠点として生まれ変わりました。



愛知医科大学 眼科クリニックMiRAI コンセプト

〔基本方針〕眼科先端医療の提供



わたしたちの、 医志



目指す医師像や目指す医療のあり方など、
在学生一人ひとりの
医療に対する「志」を聞きました。



2学年次から解剖実習が始まり、人の生死について考えることが増えてきました。そして、自分が医学部を志した理由や、自分の使命について改めて考えるようになりました。これからも医療チームの一員として、また、患者さんやご家族の方々に信頼される医師を目指して、勉学に励んでいきます。

2学年次 矢野 歩帆
(静岡県 浜松北高校出身)



患者さんの不安に寄り添い、最適な治療を選択できる医師になりたいと思っています。医療は日々変化するので常に新しい知識を吸収する必要があります。そのために、これからも目の前のことに真摯に向き合い、チャレンジすることを忘れず残りの学生生活を過ごしていきたいです。

4学年次 鬼頭 良汰
(愛知県 名古屋高校出身)





すべての患者さんにはそれぞれの社会的背景があり、治療についての希望も多種多様です。私は医学的知識と技術そして人徳を以て、患者さんの望む人生を実現できるよう全人的に支えられる医師になりたいです。そのために、たえず進歩する医療に対し向学心とStudent Doctorとしての責任感を持ち、温良恭儉の精神で日々精進していきます。

5学年次 近藤 竜徳
(愛知県 愛知高校出身)



実習を通して患者さんからお話を伺う際、ただ情報を得るだけではなく、信頼関係を築くことの重要性を感じました。将来は患者さんやご家族との信頼関係を大切に、心のケアも含めた医療を行えるようになりたいです。そのためには常に最新の医学知識や技術を吸収し、患者さんに寄り添うことのできる医師を目指します。

6学年次 関戸 結衣
(東京都 共立女子高校出身)





教育カリキュラム

時代が求める良医の育成に取り組んでいます

医学部の教育理念

本学医学部の教育理念は、医学知識や技術の修得はもとより、医学を志す者として教養豊かな人間性を涵養することです。すなわち、建学の精神及び学是に基づいた科学的・倫理的判断

力、社会貢献の自覚を養い、情緒と品格を兼ね備えた医療人を育成することです。

カリキュラム・ポリシー〔抜粋〕

医師に求められる知識・技能・態度を、段階的、スムーズに修得できるように講義および医療実習・臨床実習を1学年次から6学年次まで継続的、かつ、らせん状の学修方法にて積み重ねていきます。学修内容が真の効果的な学びとなるように講義は単なる一方向性の座学ではなく、教員との双方向性のやりとり、学生間の意見交換・議論などのアクティブ・ラーニングを6年間通して行います。また、6年間継続する医療実習および臨床実習では、常に、事前

学習、実地体験、体験の振り返りのまとめとプレゼンテーションを行い、経験からの学びを深め、確実にそれらを身につけられるようにします。

これらによって修得された学びは、医学的知識を評価する試験だけではなく、シミュレーションを使った技能の評価、振り返り記述や多職種を含めた多方面からの態度評価など、多面的・複合的な方法によって学修成果の達成度を明らかにします。

教育目標

本学医学部は、ヒューマニズムに徹し、医学・医療の社会的使命を進んで果たす医師を養成することを教育目標としています。現代社会は、医学の研究に豊かな思考力と創造性を発揮し、常に医学の進歩に対応しつつ、最新の知識、技能および態度を身につけることのできる医師又は医学者を求めています。本学医学部では、これらの要請に的確に対応するため、3つの教育目標を掲げています。

1. 将来の医学・医療の様々な分野に共通して必要な基本的知識、技能、態度を身につけ、生涯にわたる学修の基礎をつくります。
2. 自主性・創造性を身につけ、問題解決能力を高めます。そして、医学の進歩と、医療をめぐる社会情勢の変化に対応できる能力を涵養します。
3. 医療を予防・診断・治療から社会復帰までの包括的なものとして捉え、自然科学のみならず、その背景にある心理的・社会的諸問題をも含めて総合的に対応できる能力を涵養します。

カリキュラムの特徴

本学医学部は、時代の要請に即した授業科目を取り入れ、6年間の一貫教育としてカリキュラムを編成しています。

低学年においては、一部の授業科目で少人数教育を取り入れて教員と学生との全人的接触を図っています。このことは、学生のコミュニケーション能力や問題解決能力を高めるとともに、自主性を伸ばすことにつながっています。

医学部では講義や実習を通じて、基礎医学から臨床医学まで幅広い分野にわたって知識を身につけることが求められます。将来医師として活躍するためには、知識だけではなく、実習を通じて医療従事者としての責任ある態度や価値観を身につけることが大切です。

このため、1学年次では本学大学病院での早期体験実習

(シミュレーション実習、看護体験実習、臨床科見学実習)、2学年次では心身障がい者施設等での実習、3学年次では老人保健施設等での実習、4学年次では学外医療機関での地域医療早期体験実習を取り入れております。

また、1学年次において専門科目の解剖学、生理学、生化学を開講しています。このことは、医学生としての自覚と学習意欲を早い時期から高めることにつながっています。

モデル・コア・カリキュラムに対応した教育カリキュラムとなっており、(臨床医学系科目では)統合型の講義も行われています。臨床実習では、近隣の医療機関の協力を得て、診療参加型のクリニカル・クラークシップも取り入れていきます。

ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

本学医学部では、建学の精神に基づき、新時代の医学知識と技術を身につけて科学的・倫理的判断能力および情緒と品格を兼ね備えた教養豊かな人間性を培い、地域社会に奉仕できる医師の養成を目指します。カリキュラム・ポリシーに沿った

カリキュラムを履修し、卒業時能力達成基準(コンピテンス、コンピテンシー)に定める項目を身につけた学生に卒業を認定し、学士(医学)の学位を授与します。

愛知医科大学の6年間

良医になるための学びのステップ

医師という職業は、生涯にわたって自ら学ぶ姿勢が求められます。

自ら問題を発見して自ら問題を解決する能力を高めるため、少人数のグループに分かれて、

与えられた課題について調査・討論を重ねるチュートリアル教育を取り入れています。

また、信頼される医師になるには、何よりも患者さんと良好なコミュニケーションを築く能力が必要です。

そのため、1学年次からコミュニケーション能力を高める教育を行っています。

1 学年次

2 学年次

3 学年次

4 学年次

共用試験
(CBT, Pre-CC OSCE)

1 学年次は、人文・社会科学、自然科学、外国語などの科目を学び、幅広い教養を身につけると共に、医学を学ぶための基礎を培います。少人数で行われる初年次医科学セミナーでは、各自が興味のある分野を選択し、演習・実験・実習を通して学びの技法（アカデミックスキル）を身につけます。プロフェッショナルイズム1a・1bでは、医師となるための自覚や心構え、ライフスキルなどを身につけ、自己学習の習慣の確立を目指します。

早期に臨床現場を体験するために、早期体験実習としてシミュレーション実習・コミュニケーション演習1、看護体験実習、臨床科見学実習を行います。1学年次のうちから、解剖学、生理学、生化学など基礎医学系の科目を取り入れています。

2 学年次では、本格的に基礎医学系の科目が開講され、高学年次で学ぶ臨床医学と有機的に結びつく統合講義を取り入れ基本的知識を学修します。疾病の性状や病因について学ぶ病理学、薬物の作用とその生体反応について学ぶ薬理学を学修します。プロフェッショナルイズム2では、医師として多様なニーズに対応できるようになるのみならず、多様なキャリアパスを展望できるよう学びます。社会的存在としての患者、患者をケアする医療チームのあり方を体験する地域社会医学実習、チーム医療実習及び外来案内実習を行っています。

3 学年次では、疫学、環境衛生、労働衛生といった各分野における社会と医学の関わりを学ぶ公衆衛生学や衛生学などの社会医学を学修します。

さらに、本格的に臨床医学の講義が展開されます。検査医学、症候学を学び、臓器別に内科・外科を学びます。時代の要請に即した東洋医学、高齢医学といった科目も開講されます。また、老人保健施設などの学外での体験実習を通して、高齢者の介護を体験し医療と介護の連携について理解を深めると共に、医学生としての自覚を深めます。

4 学年次では、さらに医学知識を深めるため多く臨床医学の講義が行われます。地域医療総合医学では、地域医療実践のための総合診療、プライマリ・ケア及び地域包括ケアについて学び、近隣の医院においてプライマリ・ケアの実際を見学します。基本手技・医療面接実習、臨床実習入門では、クリニカル・クラークシップに進むための基本的な技能・態度を修得します。8月～9月に実施される医療系大学間共用試験（CBT, Pre-CC OSCE）に合格した者には、10月の白衣式で「Student Doctor」の称号が与えられ、クリニカル・クラークシップが始まります。



シミュレーターを使った基本手技・医療面接実習

【新カリキュラムと共用試験】

医学部では、医学教育モデル・コア・カリキュラムに対応したカリキュラムを採用。医療人となるための基礎を学ぶプロフェッショナルイズム、自主学習法の体得、問題解決能力の養成を目指したアクティブラーニングを開講。初年次から基礎医学を取り入れ、臨床実習は4・5・6学年次に実施。

また、診療科を選択したり、学外の病院での臨床実習も取り入れて診療参加型臨床実習（クリニカル・クラークシップ）を充実させています。臨床実習を受けるためには、臨床実習開始前に全国の医科大学・大学医学部の学生を対象に行われる共用試験に合格する必要があります。共用試験には、コンピュータを用いた知識・問題解決能力を評価する客観試験（CBT）と態度・診察技能を評価する客観的臨床能力試験（Pre-CC OSCE）があり、4学年次に実施しています。



学年を越えて継続的にプロフェッショナリズム、行動科学教育で医療人としての基本的価値観、資質、能力を修得します。
臨床実習教育前の低学年から実施している学内外での体験実習や見学実習の内容をさらに充実させ、最終学年まで学外での実習を取り入れます。共用試験合格後から開始される臨床実習については、全課程に診療参加型の臨床実習を導入しています。

POINT

早期体験実習、専門科目（解剖学、生理学、生化学）を1学年次から取り入れている。

時代の要請に即した授業科目を取り入れている。

プライマリ・ケアを始め幅広い領域に対応できる臨床実習を行っている。

グループワークやプレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを取り入れている。

診療参加型臨床実習を行っている。



5 学年次



6 学年次

総合試験
Post-CC OSCE



卒業 → 医師国家試験 → 臨床研修

5 学年次は、4学年次から引き続き大学病院で診療参加型臨床実習（クリニカル・クラークシップ）を行います。実際に患者さんに接して、医師にふさわしい態度や技術を身につけます。10月以降は選択制のクリニカル・クラークシップになります。また、自己の学修レベルをチェックするため、医師国家試験形式による総合試験が年3回実施されます。

6 学年次では、5学年次から引き続き選択制のクリニカル・クラークシップを行い、学外の病院での臨床実習も行います。また、医師国家試験対策として模擬試験や個人指導プログラムを取り入れています。卒業を認定するために、医学の知識を問う総合試験、臨床の技能・態度を問うPost-CC OSCEを実施します。

愛 知医科大学病院では2年間、学内のみで研修を行うプログラム、2年目に20週間を市中病院で研修するプログラムのうち、いずれかを選択できます。

当院は、大学病院としての高度な専門医療ばかりでなく、名古屋市北東部に隣接する市町村の地域医療から広域にわたる三次救急をも担っているため、あらゆる分野の一次、二次救急症例を始め、一例報告に値する貴重な症例まで幅広く経験できる環境が整っています。当院の当直は、内科系、外科系及び専修医の当直医が救急外来に常駐し、研修医2年目を指導、その研修医2年目が研修医1年目を指導する屋根瓦方式を採用しており、すべての救急患者をチームで診察する体制となっています。卒後臨床研修センターではセンター長及び専任教員を始めスタッフ一同がメンターの役割を担っており、安心・安全な研修のみならず、生活面も含めたキャリア形成支援を行っています。



〔臨床研修後の専門研修プログラム〕

日本専門医機構により、内科や外科を始めとする19診療科が基本診療領域に位置付けられました。当院も専門医資格の取得を前提とした専門研修プログラムを設置し、専門医制度に対応しています。さらに次の段階として、専門医取得者はSubspecialtyの学会専門認定を目指すことも可能です。

また、臨床医としての経験を積みながら大学院コースを履修し、博士の学位を取得する「社会人大学院」も設定しています。

なお、臨床系女性教員の特別短時間勤務の実施や保育所の開設、病児保育対応の実施など働きやすい環境が整備され、大学全体として専門医の育成をバックアップしています。



1 学年次 カリキュラム

幅広い教養を身につけると共に
医学を学ぶための基礎を養う

Curriculum

- | | | | |
|------------------|-------------------------------|-----------------------------------|---------------------|
| ■ プロフェッショナルリズム1a | ■ 医用物理学 | ■ 初年次医科学セミナー | ■ 早期体験実習1b(看護体験実習) |
| ■ プロフェッショナルリズム1b | ■ 生体分子の化学 | ■ 自然科学演習 | ■ 早期体験実習1c(臨床科見学実習) |
| ■ 多職種連携演習1 | ■ 細胞生物学 | ■ 〈物理学、化学、生命科学・生物学から1つ選択〉 | ■ 解剖学1a |
| ■ アカデミックリテラシー | ■ 物理学実験 | ■ リベラルアーツ | ■ 解剖学1b |
| ■ 医療のための情報学 | ■ 化学実験 | ■ 〈経済と医療、文学と医療、法学と医療、宗教と医療から2つ選択〉 | ■ 生理学1 |
| ■ 医用心理学 | ■ 細胞生物学実習 | ■ 生命倫理 | ■ 生化学1 |
| ■ 行動科学1a | ■ 医学英語1a | ■ 早期体験実習1a | ■ 基礎科学・基礎医学統合演習 |
| ■ 行動科学1b | ■ 医学英語1b | ■ 〈シミュレーション実習・コミュニケーション演習1〉 | ■ 選択講座1 |
| ■ 行動科学1c | ■ 第二外国語 | | |
| ■ 医療のための数学 | ■ 〈ポルトガル語・中国語・韓国語・ドイツ語から1つ選択〉 | | |
| ■ スポーツ科学 | | | |

Pick Up Curriculum

■ プロフェッショナルリズム1a・1b

医師として社会に貢献するためには、社会が求める医学的知識・技術のみならず態度・価値観も修得しなければなりません。また、医学生が6年間の医学を修めるにあたり、医師となるための自覚や心構え、ライフスキルを身につけ、自己学習の習慣の確立を目指しています。医師としての心構え、多職種連携、医療倫理について学修し、医師という職業について学びます。

■ 初年次医科学セミナー

教員がチューターとなり、学生は少人数の学習グループに分かれて学修し、大学における自己学習のための学習法を自ら体験することで協調性を養います。また、自ら問題を発見し、学修し、解決する能力をトレーニングすることにより、大学生としての自己学習の能力を修得します。

■ 解剖学1a・1b

「医学知識と科学的探求」のため、生体の正常な構造や機能を理解し、

疾病の病因・病態・治療につながる基礎医学知識を学びます。また、実習を通して「コミュニケーション」と「プロフェッショナルリズム」を修得します。「次世代の医学のため無報酬で自らの身体を提供する」献体の精神に学び、医の倫理を身につけます。人体の構造の美しさ、精巧さ、多様性を学び、医療人としての観察眼を養います。「学問には終止も境界もない」一学無止境の精神に学び、医学の奥深さを知ることになります。

■ 生化学1

「医学知識と科学的探究心」の理解のため、生化学の基礎である生体の代謝学を学び、そのことによって、疾病の病因と病態・治療につながる基礎医学的な要素の理解・説明にもつながっていきます。生化学の講義・実習で得た知識を基にして、将来診療で経験した病態の解析につながる学修を行います。疾患を含むすべての生命現象は基本物質の相互作用と代謝の上に成立していることを学びます。

初心を忘れず 医学の学びを深めたい

1 学年次 渡部 清香 (愛知県 愛知淑徳高校出身)

祖母が愛知医科大学病院に入院していた時、医師や看護師の方々の真摯な姿に憧れを覚えました。また自分も生まれた頃、この病院の小児科にお世話になったことがあるなど、本学が自分にとって身近な存在だったことから、「私もこの大学で医師を目指そう」と思い、入学を決めました。授業は始まったばかりですが、解剖学の授業には、期待と不安があります。入学早々の2回目の授業の時には、2学年次の先輩方が解剖実習で解剖を行ったご献体を見学させていただきました。見学前はとても緊張していましたが、見学後は自分の無知さと、これから自分も理解していかなければならないという自覚や意欲が高まりました。この初心を忘れずに、一つひとつの授業を大切にしながら勉強に取り組みたいです。部活動はバレーボール部と、他大学のオーケストラ部にも参加しようと思っています。そして勉強と部活動の両立を図り、有意義な大学生活を過ごしていきたいです。



2学年次 カリキュラム

高学年次で学ぶ臨床医学に 備えるための基本知識を修得する

| Curriculum |

- プロフェッショナルリズム2
- 多職種連携演習2
- 行動科学2
- 医学英語2
- 分子発生学
- 解剖学2(解剖実習)
- 生理学2
- 生理学実習
- 生化学2
- 生化学実習
- 薬理学



- 薬理学実習
- 分子病態学
- 病理学(総論)
- 病理学(各論)
- 病理学実習
- 統合講義(腫瘍学)
- 統合講義(炎症学)
- 微生物学・基礎感染症学
- 微生物学実習
- 免疫学
- 免疫学実習
- 寄生虫学
- 寄生虫学実習
- 地域社会医学実習
- チーム医療実習
- 外来案内実習
- コミュニケーション演習2
- 選択講座2

| Pick Up Curriculum |

■ プロフェッショナルリズム2

医師として社会の多様なニーズに対応できるようになるのみならず、多様なキャリアパスを展望できるようになるために、「医師として求められる基本的な資質・能力」である『プロフェッショナルリズム』、『医学知識と問題対応能力』、『診療技能と患者ケア』、『コミュニケーション能力』、『チーム医療の実践』、『医療の質と安全の管理』、『社会における医療の実践』、『科学的探究心』、『生涯にわたって共に学ぶ姿勢』についての理解を深め、医療専門職ならび医療専門職以外の有識者と議論をしながら学修を進めます。

■ 生理学2

人体各種組織や器官、及び器官系の正常機能、ならびにそれらの相互作用による生体協同や恒常性を理解し、疾病の病因・病態・治療につながる基礎医学的な要素を理解します。

生理学は生命現象を機能から追究する学問であって、論理的な思考・モデル

にもとづいて生命事象を理解・推論する分野です。各臓器系に特徴的な生理調節機構を理解し、恒常性維持機構の破綻から疾病へ至るしくみを理解する。さらに、病態下での生理現象についての理解を進めます。

■ 統合講義(腫瘍学)

医学知識と科学的探究心の理解のため、特に腫瘍の病因、病態につながる基礎医学的な要素、社会医学的背景を学び、さらに腫瘍の症候と適切な治療選択の概要、チーム医療を理解します。腫瘍の基礎医学、社会医学から臨床医学までを俯瞰的に理解します。

■ チーム医療実習

「プロフェッショナルリズム:チーム医療」「コミュニケーション」を理解するために、チーム医療にその一員として参加し、医師の役割や他職種の役割を体験します。保健・医療・福祉・介護及び患者に関わるすべての人々の役割を理解し、相互の尊重のもとに適切な行動をとることを学びます。

より能動的に勉強する 姿勢が身につきました

2学年次 菊田 健太 (神奈川県 桐蔭学園高校出身)

本学では1学年次のかかなり早い段階でご献体の見学がカリキュラムに組み込まれているので、自分が医学部に入学したことを強く実感することができました。また、どの科目の先生方も疑問や質問に丁寧に答えてくださり、生物選択でも物理学を理解できるようになったり、解剖学や生理学など専門的な講義での疑問もすべて解決できたりするなど、充実した学びの環境が整っています。早期体験実習では、様々な医療現場を見学させていただきました。実習を経験して、試験のためではなく、いつでも知識を引き出せるように勉強しておかなければ、現場での会話にもついていけないことを痛感しました。そのため、実習後は与えられた資料だけでなく、関連する分野についても能動的に勉強するようになりました。今後は3学年次から学ぶ臨床医学に備え、基礎医学をしっかり定着させることと、実習を通して、臨床現場でも使える知識や技術を積極的に身につけていきたいです。



3学年次 カリキュラム

本格的に臨床医学の 学びがスタート

| Curriculum |

- | | | | |
|----------------|----------------|--------------|---------------|
| ■プロフェッショナルリズム3 | ■地域包括ケア実習 | ■血液・造血器学 | ■東洋医学 |
| ■多職種連携演習3 | ■選択講座3 | ■精神科学 | ■高齢医学 |
| ■医学英語3 | ■検査医学 | ■小児科学 | ■症候学 |
| ■基礎医学セミナー | ■消化器学 | ■整形外科学 | ■コミュニケーション演習3 |
| ■衛生学 | ■循環器学 | ■泌尿器科学 | |
| ■公衆衛生学 | ■呼吸器・アレルギー学 | ■産科学 | |
| ■公衆衛生学実習 | ■内分泌・代謝・糖尿病学 | ■婦人科学 | |
| ■法医学 | ■脳・神経学 | ■放射線医学 | |
| ■健康増進と疾病予防 | (神経内科学、脳神経外科学) | ■リハビリテーション医学 | |
| ■EBM実習 | ■腎・膠原病学 | ■疼痛医療学 | |

| Pick Up Curriculum |

■地域包括ケア実習

医師としての価値観・態度・姿勢を、実習施設の利用者や患者、その家族から醸成し、他職種の考えや役割を学ぶことで、チーム医療の実践を理解します。さらに、患者・家族医療チームメンバー・住民・社会との良好な関係を構築できること、プライマリ・ケアや、介護/ケアを含む様々な視点からの患者ケアの実践ができること、そして最終的に地域包括ケアの実践に参加できることを目指します。

■衛生学

特に産業保健、環境保健、母子保健、食品衛生、精神保健分野について、人の健康行動につながる要因について理解し、さらに、疾病・障害・健康問題と社会との関係や、社会における医療問題を説明できることを目指します。地域の医療状況、社会経済的状況を含めた特殊性や課題について説明できることを目標としています。健康や疾病が、生活・労働・教育の場

での諸活動や地域環境、地球環境と密接な関連を持っていることを具体的に学びます。医師は、疾病を治療するという働きのみではなく、人々がいきいきと生活できるよう、専門的な知識・技術を基盤とし、社会的諸関係に働きかけることを通じて職能を果たすべきことを学びます。

■基礎医学セミナー

「プロフェッショナルリズム:生涯学習」「医学知識と科学的探究心」を学ぶために、様々な分野から特定の課題を選択し、その課題について調査・研究を行います。医学の進歩は日進月歩であり、その膨大な情報から取捨選択しながら学ぶ必要があり、自ら考え、学び続ける一歩として本セミナーに取り組みます。

■血液・造血器学

血液・造血系の生理、病理、薬理学を理解します。鑑別診断を含む血液疾患の症候、分子・遺伝子病態、診断、治療(造血幹細胞移植・輸血を含む)を理解します。

クラスメイトと共に 勉強する大切さを実感

3学年次 渡辺 里奈 (愛知県 滝高校出身)

2学年次のコミュニケーション演習2では、模擬患者さんに実際に問診をさせていただきました。医療現場でどのような質問をするべきなのかということや、初対面の患者さんと良好なコミュニケーションをとるには自分に何が足りないのかなどの課題が明確になりました。選択講座2では、外科手技の基本である糸結びを実際に練習する授業があり、それが自分にとって外科に興味を持つ大きなきっかけになりました。高校までの勉強は、一人で黙々と取り組むことが多かったのですが、大学入学後はクラスメイトと一緒に勉強することの大切さを実感しています。今は、質問し合うことで理解が深まり、お互いに協力し合い、高め合いながら学ぶことができています。将来、患者さんはもちろん医療スタッフの方々など、まわりの人から頼られる医師になれるよう、授業や実習を通して様々なことを学び、吸収できるように頑張りたいと思っています。



4学年次 カリキュラム

臨床医学講義から 臨床実習へ

| Curriculum |

- プロフェッショナルリズム4
- 医学英語4
- 医療と倫理
- 選択講座4
- 皮膚科学・形成外科学
- 眼科学
- 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
(口腔外科学)
- 麻酔科学
- 救急医学
- 臨床感染症学



- 臨床腫瘍学
- 医療安全
- 臨床遺伝学
- 臨床推論
- 地域医療総合医学
- 基本手技・医療面接実習
- 臨床実習入門
- 地域医療早期体験実習
- 共用試験
(CBT, Pre-CC OSCE)
- クリニカル・クラークシップA



| Pick Up Curriculum |

■ 医療と倫理

プロフェッショナルリズムにおける、特に倫理に関わる医師としての価値観・態度・姿勢を身につけることを目標としています。さらに、コミュニケーションにおける良好な関係構築のために個人レベル、社会レベルの様々な問題を知り、「医学的知識と科学的探究心」における医学、医療を取り巻く社会における様々な問題を知り、解決するための根拠を収集し、それらの根拠を客観的に評価した上で、解決へと結びつける方法論を学びます。まず、患者の基本的権利を熟知し、これらに関する現状の問題点を学びます。また、医療と医学研究における倫理の重要性を知り、その上で倫理的、法律的、社会的な問題を様々な立場、視点から多角的に考え、ディベートにより、それらの問題に対する医師としての判断をどのように導くか、論理的な思考力とコミュニケーションを身につけることを目的としています。

■ 地域医療総合医学

地域医療とは、対象とするコミュニティを特定し、そのニーズを明らかにし、その地域で包括的な医療を提供する医師として幅広い診療を提供すると共に、プライマリ・ヘルスケアの視点を持って地域全体の健康を目指して医療活動することです。地域医療実践のための総合診療、プライマリ・ケア及び地域包括ケアについて学びます。

■ クリニカル・クラークシップA

「Student Doctor」の認定を受け、臨床実習を行います。学生が主体となり、患者さんとの関わりの中から臨床医学を学びます。従来型の見学主体ではなく、学生が研修医・指導医で構成される診療チームの一員として診療に参加し、指導医の監督のもとに実際の診療を行います。単に教科書に記載された知識の理解だけでなく、基本的診療技能、臨床現場での推論の仕方、患者さん・コメディカルとのコミュニケーションなどを修得します。

勉強と部活動を両立しながら 充実した毎日を過ごしたい

4学年次 白井 友哉 (愛知県 東海高校出身)

3学年次からは臓器別・機能別に様々な臨床科について学ぶなど、本格的に臨床医学の講義が始まりました。より専門的で難しい内容が増えたため、知識の修得は大変でしたが、それと同時に、将来医師になった時に具体的に役立つと実感することも多かったです。また多職種連携演習3では、看護学部や他大学の薬学部の学生と共に救急現場での対応などを行い、チーム医療における医師の役割やコミュニケーションの重要性を学ぶことができました。部活動は硬式野球部に所属しています。今年度は入学して初めて西医体(西日本医科学学生総合体育大会)が開催される予定なので、勉強と部活動の両立を図りながら充実した学生生活を過ごしていきたいです。将来の進路はまだ決めていませんが、今はスポーツ医学に興味があります。今後の臨床実習での様々な学びや経験を通して、自分が目指したい医師像を確立していきたいです。



5学年次 カリキュラム

「Student Doctor」として 医療チームに参加する

| Curriculum |

- クリニカル・クラークシップA
- クリニカル・クラークシップB
- 総合試験

| Pick Up Curriculum |

■ クリニカル・クラークシップA・B

学生が主体となり、患者さんとの関わりの中から臨床医学を学びます。従来型の見学主体ではなく、学生が研修医・指導医で構成される診療チームの一員として診療に参加し、指導医の監督のもとに実際の診療を行います。単に教科書に記載された知識の理解だけ

でなく、基本的診療技能、臨床現場での推論の仕方、患者さん・コメディカルとのコミュニケーションなどを修得します。

クリニカル・クラークシップBでは、学生自ら選択する診療科で実習を行い、一部の期間には学外の協力病院を選択し実施しています。



患者さんの症状をもとに 病態を考えていきたい

5学年次 増田 大輝 (愛知県 菊里高校出身)

4学年次の臨床感染症学の講義は、覚えることが多く大変でしたが、原因菌によって症状が異なったり、治療薬の使い分けがいろいろあったり、とても興味深く学べました。一番苦労したのは、共用試験(CBT, Pre-CC OSCE)の勉強でした。試験に向けて友達と情報交換しながら、一緒に勉強や手技の練習をすることで乗り越えることができました。以前は疾患ごとに教科書的な知識をインプットしていましたが、クリニカル・クラークシップAが始まった今は、疾患の知識を持っているだけでなく、患者さんの症状をもとに病態を考えるなど、知識を適切に臨床に活かせる力を身につけていきたいです。実習での、リハビリテーション医学講座の尾川教授の「臨床においての疾患ではなく、とにかく患者さんを診る」という考え方はとても素晴らしく、自分が目指したい医師像であると感じました。これからも、患者さん一人ひとりに合わせた最善の治療を提供できるよう、診察技能を磨いていきたいです。

6学年次 カリキュラム

医師国家試験に向けて 6年間の学びを総括する

| Curriculum |

- クリニカル・クラークシップB
- Post-CC OSCE
- 総合試験

| Pick Up Curriculum |

■ 総合試験

卒業を認定するための医学知識を問う試験です。医師国家試験と同じ形式で、医学全般にわたる幅広い知識が求められます。

■ Post-CC OSCE

卒業を認定するための技能試験です。模擬患者を前に模擬診察を行います。医療面接から始まり、患者への接し方や診察手技が正しく行えるかが問われます。



医師 国家試験

基礎医学・臨床医学・社会医学すべての医学関連科目が出題範囲であり、科目ごとの試験ではなく、すべての科目を取り混ぜた総合問題形式で2日間、計400題の選択肢問題で行われます。医師として知っておくべき内容を出題するとして、概ね4年に1度「医師国家試験出題基準」が改訂され、そこに挙がっている項目、疾患などを基本として出題されます。

患者さんの人生を含めて 全体をみていきたい

6学年次 小寺 利奈 (愛知県 南山高校出身)

クリニカル・クラークシップBでは、興味のある診療科を選択し、それぞれ4週間学ぶことができます。長期間同じ診療科で実習を行うことで、より知識を深めることができたり、様々な手技に参加させていただいたり、実際の現場ならではの学びがたくさんあり、貴重な経験になりました。これまでの実習を通して実感したことは、医師は教科書の内容以上のことを求められているということです。標準的な治療がすべての患者さんに当てはまるわけではなく、患者さんの背景や性格、抱える問題に合わせた最善の医療を提供する必要性を感じました。また、様々な職種の方々と接する中で、チーム医療の大切さを改めて実感しています。今後、卒業試験や国家試験に合格するための知識の修得はもちろん、働き出してもきちんと使える知識や手技を学んでいきたいです。そして幅広い視野を持てるよう日々努力し、将来は患者さんの人生を含めて全体をみることができる医師を目指したいです。



医師国家試験に向けて



近年の医師国家試験では、臨床現場での的確な処理能力などが求められるようになり、より総合化した幅広い知識が必要になってきています。そのため、初年次から大学病院での体験実習を取り入れ、4学年次から6学年次までは臨床実習を実施しています。臨床実習は診療参加型の実習であり、5学年次後半からは実習する診療科を自ら選択でき、一部の期間は学外の病院を選ぶこともできるなど、臨床実習を重視したカリキュラムになっています。6学年次には、これら臨床実習の集大成となる臨床技能試験のPost-CC OSCEを実施し、総合的な医学知識を問う総合試験を実施しています。総合試験は医師国家試験と同じ形式で実施します。また、模擬試験や個人指導プログラムなどの医師国家試験に向けたカリキュラムや、グループ学習を取り入れてグループごとに勉強会室を提供するなど、様々な面から万全の国家試験対策を実施しています。



国家試験対策委員からメッセージ

**合格率100%を目指して
学年全体で日々の
学修に取り組んでいます**

6学年次 岸 春花

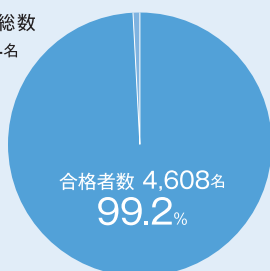
(東京都 田園調布学園高等部出身)

国家試験対策強化委員会では、先生方と学生が互いに意見を交わし、国家試験合格に向けて学内試験や講義のカリキュラム調整を行っています。また、近年では新学期に上の学年から下の学年に日々の勉強スケジュールや試験・実習の取り組み方など経験談をふまえたガイダンスを企画するなど、学年を越えたサポートも本学部の特徴だと思います。昨年度は新卒合格率100%だったこともあり、今年も全員で医師としてのスタートラインに立てるよう頑張りたいと思います。

医師国家試験 高水準の合格率

■ 卒業生合格状況

卒業生総数
4,644名

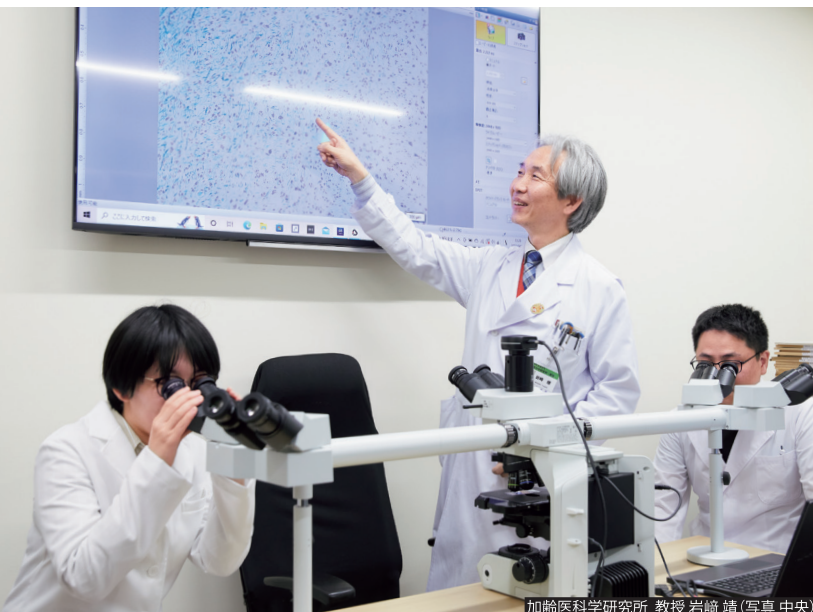


本学部ではカリキュラムや学修環境の整備などによって学修効果を上げ、医師国家試験合格率が高い水準で安定することを目指します。なお、現在までの卒業生全体4,644名のうち4,608名(99.2%)が国家試験に合格し、医師として活躍しています。

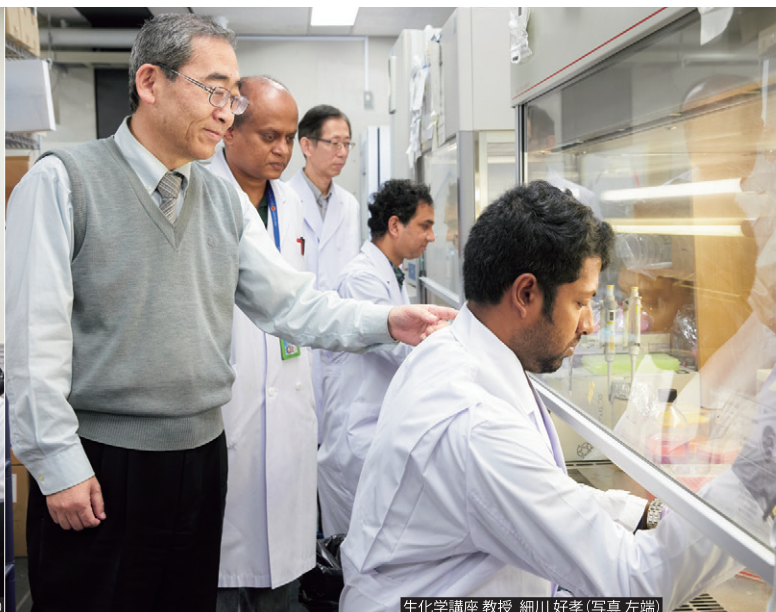
■ 医師国家試験合格状況

	新 卒		既 卒		全 体	
	合格者 受験者	合格率	合格者 受験者	合格率	合格者 受験者	合格率
第115回 (2021年)	$\frac{107}{109}$	98.2%	$\frac{8}{13}$	61.5%	$\frac{115}{122}$	94.3%
第116回 (2022年)	$\frac{96}{102}$	94.1%	$\frac{2}{6}$	33.3%	$\frac{98}{108}$	90.7%
第117回 (2023年)	$\frac{115}{115}$	100%	$\frac{4}{8}$	50.0%	$\frac{119}{123}$	96.7%

大学院医学研究科



加齢医科学研究所 教授 岩崎 靖 (写真中央)



生化学講座 教授 細川 好孝 (写真左端)

これからの医療・医学界において リーダーシップを発揮できる研究者を養成します

大学院医学研究科(博士課程)の教育研究上の目的は、「国際水準の研究遂行能力を有する研究者を養成すること」です。この医学研究科は、「基礎医学系」と「臨床医学系」の2つの専攻系から成ります。「基礎医学系」は14の授業科目、「臨床医学系」は32の授業科目でそれぞれ構成しています。各専門分野においては、高度で先端的研究を展開すると共に国際的レベルの研究を行う能力を有する研究者の養成を目指しています。このため、「基礎医学専門研究者養成」と「先端臨床研究者養成」の2つのコースを設け、どちらか1つを選択してもらいます。また、夜間にも授業を開講して、働きながら高度の研究能力を身につけようとする人を、社会人学生として積極的に受け入れています。



Message

働きながら
高度で先端的研究に
取り組めます

加齢医科学研究所 教授 岩崎 靖

本学大学院の特色の一つは社会人学生を積極的に受け入れていることで、医師はもちろん薬剤師や理学療法士などの医療系スタッフが、働きながら高度な研究を進めています。またバングラデシュをはじめ、中国、モンゴルなど、海外からの学生も研究指導を受けています。医師免許を取得後、さらに研究を深めていきたいという人は、ぜひ本学大学院に進んで医学博士を目指してもらいたいと思います。

博士課程

専攻	授業科目
基礎医学系	細胞生理学(生物学)、解剖学、生理学、生化学、薬理学、病理学、感染・免疫学、衛生学、公衆衛生学、法医学、医学・医療教育学、加齢医科学、神経病態・幹細胞生物学、分子医科学
臨床医学系	内科学、精神科学、小児科学、外科学、脳神経外科学、整形外科、皮膚科学、泌尿器科学、産婦人科学、眼科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、放射線医学、麻酔科学、総合医学、形成外科学、救急集中治療医学、リハビリテーション医学、臨床感染症学、病理診断学、統合疼痛医学、口腔外科学、睡眠医学、救命救急医学、輸血・細胞治療医学、新生児学、がん治療学、緩和・支持医療学、戦略的先制統合医療・健康強化推進学、医療安全管理学、医療薬学、災害医学、造血細胞移植・細胞治療情報管理学(連携大学院)

国際交流 国際的かつグローバルな視野を養うために

現在、本学医学部では、教育・研究の水準を高めることを目的とし、アメリカ、ヨーロッパ及びアジアの10大学(地図参照)と学術国際交流協定を締結し、国際交流活動を広く展開しています。そのうち以下の7大学の医学部とは、学生の交流プログラムを組み、世界各地の医療や医学教育の現場を体験できる機会を設けています。

[アメリカ] 南伊利ノイ大学(SIU)医学部、バーモント大学(UVM)医学部 [ドイツ] ルール大学(RUB)医学部

[タイ] コンケン大学(KKU)医学部、タマサート大学チュラポーン国際医学部(CICM)

[ポーランド] ウッチ医科大学(MUL)医学部、ボズナン医科大学(PUMS)医学部

本学の学生の交流プログラムでは、主に5学年次の学生が現地にて約4~8週間の臨床実習を行います。さらに、南伊利ノイ大学医学部では、3・4学年次の学生を対象とした3週間の「SIU医学部2学年次カリキュラム受講コース」も用意しています。多様なプログラムを運用することで、国際的かつグローバルな視野を養う場を多く提供し、国際交流の一層の活性化を推進しています。



新たな学術国際交流協定

タイ タマサート大学チュラポーン国際医学部(CICM)

愛知医科大学では、さらなる国際交流の活性化を目指し、2023年4月に新たにタイのタマサート大学チュラポーン国際医学部と学術国際交流協定を締結しました。相互の大学の教員同士の確かな信頼関係のもと、今後は学生交流を中心とした活動を通して、同大学とゆるぎない友好関係を着実に育んでいきたいと考えています。

アメリカ 南伊利ノイ大学(SIU)医学部

本学では、現在アメリカの南伊利ノイ大学(SIU)医学部との学生交換を含む包括的な相互交流を行っており、例年、本学医学部学生10名程度が、同大学医学部からは4名程度の学生が留学しています。本学の学生の短期留学プログラムは、2つのコースからなっています。それぞれ英語面接により医学英語力などを見て、留学生を決定します。

■ SIU医学部臨床実習選択コース

6学年次に進級する学生を対象とした8週間のSIU医学部の4学年次用(日本の6学年次に相当)臨床実習選択コースへ参加する制度で、高度な医学英語力と臨床実習能力が要求されます。例年、5学年次の2月から3月にかけて4名程度が留学しています。このコースへの参加は、本学で5学年次開講分の診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップB)として認められます。

■ SIU医学部2学年次カリキュラム受講コース

主に3・4学年次の学生が対象となり、主に春休みの約3週間を利用して、SIU医学部の2学年次カリキュラムを受講する制度です。SIU医学部2学年次と共に問題解決型学習(PBL)、チュートリアル講義などに参加します。例年、7名程度が留学しています。

<費用の一例:2018年度>

■ SIU医学部臨床実習選択コース

航空券代	232,300円
宿泊費	0円 ※本学から補助します!
予防接種代等	15,000円
授業料	0円
生活費(食事代、交通費等)	200,000円
旅行代	200,000円

■ SIU医学部2学年次カリキュラム受講コース

航空券代	261,700円
宿泊費	0円 ※本学から補助します!
予防接種代等	15,000円
授業料	0円
生活費(食事代、交通費等)	100,000円
旅行代	120,000円

※ほかにも、海外旅行保険代等がかかります。
※生活費や旅行代は、個人差があります。



アメリカ バーモント大学(UVM)医学部

本学では、2017年11月、アメリカのバーモント大学と学術国際交流協定を締結し、学生交換を中心とした相互交流をスタートさせました。同大学が所在するバーリントン市は東海岸北部の学園都市で、生活しやすい環境の中、若干名の本学医学部学生が臨床実習を行っています。また、同大学医学部からも若干名の学生が短期留学します。

<費用の一例:2018年度>

■UVM医学部臨床実習選択コース

航空券代	245,960円
宿泊費	1,538\$ /月
予防接種代等	40,000円
授業料	0円
生活費(食事代、交通費等)	200,000円
ビザ申請代(外部業者に依頼)	60,000円

※ほかに、海外旅行保険代等がかかります。
※生活費や旅行代は、個人差があります。



ドイツ ルール大学(RUB)医学部

ドイツのルール大学医学部とは、2012年1月に学術国際交流協定を締結し、以来活発な相互交流が行われています。同大学とは、学内サークルHIAMU(Heart in Aichi Medical University)を中心に、学生が主体的に交流活動を行っており、同大学の内科・外科などで、例年2名程度の本学医学部学生が臨床実習を行っています。また、同大学医学部からも2名程度の学生が短期留学します。

<費用の一例:2018年度>

■RUB医学部臨床実習選択コース

航空券代	197,800円
宿泊費	250€/月
予防接種代等	30,000円
授業料	0円
生活費	
食事/朝:2€(パン)、昼:無料券あり。 ※水(2リットルのペットボトル)が自由に買えます。 夜:5€(自炊の場合)、5~10€(外食の場合)	
交通費/片道2.5€(宿泊所⇄実習病院)	
洗濯機/1.5€/回	

※ほかに、海外旅行保険代等がかかります。
※生活費等は、個人差があります。



タイ コンケン大学(KKU)医学部

世界のあらゆる地域の医療や医学教育の現場を経験することを目指してタイ コンケンに位置するコンケン大学(KKU)医学部と、2011年11月に学術国際交流協定を締結し、積極的に学生等の交流を推進しています。

2012年度に開始された学生等の交流も既に11年目となり、KKU医学部との関係は成熟し、例年、同大学医学部にて10名までの医学部学生が短期留学しています。また、同大学医学部からは数名の学生が短期留学します。今後も、学生、若手医師、研究者と幅広い交流を予定しており、ますますの発展が期待できます。

<費用の一例:2022年度>

■KKU医学部臨床実習選択コース

航空券代	141,800円
宿泊費	0円
※ただし、光熱水費等が5,000円~8,000円かかります。	
予防接種代等	100,000円
授業料	0円
生活費(食事代、交通費等)	40,000円

※ほかに、海外旅行保険代等がかかります。
※生活費や旅行代は、個人差があります。



ポーランド ウッチ医科大学(MUL)医学部

ポーランドのウッチ医科大学とは、2016年2月に学術国際交流協定を締結し、学生交換を中心とした相互交流をスタートさせました。例年、相互の大学から4名までの医学部学生が短期留学しています。2019年度からは、相互関係の範囲を拡大し、新たに教員などの交流プログラムにも参加しています。

<費用の一例:2022年度>

■MUL医学部臨床実習選択コース

航空券代	281,260円
宿泊費	0円
予防接種代等	0円
授業料	0円
生活費(食事代、交通費等)	60,000円

※ほかに、海外旅行保険代等がかかります。
※生活費や旅行代は、個人差があります。



ポーランド ポズナン医科大学(PUMS)医学部

ポーランドのポズナン医科大学とは、2020年4月に学術国際交流協定を締結し、学生交換を中心としたプログラムを立案し、2022年度から相互交流をスタートさせました。相互の大学から2名程度の医学部学生が短期留学する予定です。

<費用の一例:2022年度>

■PUMS医学部臨床実習選択コース

航空券代	300,500円
宿泊費	0円
予防接種代等	20,000円
授業料	0円
生活費(食事代、交通費等)	50,000円

※ほかに、海外旅行保険代等がかかります。
※生活費や旅行代は、個人差があります。

■医学部臨床実習選択コース (上記5大学共通)

6学年次に進級する学生を対象とした4週間の臨床実習選択コースへ参加する制度で、高度な医学英語力と臨床実習能力が要求されます。このコースへの参加は、本学で5学年次開講分の診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップB)としても認められます。

ハワイ医学教育プログラム(HMEP)に加盟

2022年9月から一般社団法人JrSrが運営するハワイ医学教育プログラム(HMEP)に加盟しました。本学の学生はオンライン学修と臨床実習を融合した米国式教育を他大学の医学部学生と一緒に国内外で受けることができます。

■プログラム構成

- Open Cross Class (オンライン授業)
- E-learning (オンラインの英語教材)
- Clinical Clerkship Preparation Program(HCCPP)(ハワイ実習)
- Clinical Clerkship(HMEPCC)(日本国内で行うハワイ式臨床実習)

※米国の医師国家試験(USMLE)に対応

学修施設

総合学術情報センター

総合学術情報センターでは、知の拠点として、様々な媒体の学術情報を蓄積し、利用できる場であり続けると共に、学生がICTを利活用して「自ら学修し、自ら気づき、自ら成長する」拠点としても整備されています。

センターには、図書館、マルチメディア教室など、学生の学修スタイルに合わせて学べる空間が広がっています。

図書館では、エントランスの吹き抜けにみられる開放的な空間設計を基本とし、閲覧席、個人ブース、利用者用パソコン、グループ学習室など、快適な学修環境を備えています。

館内の利用者端末や無線LAN接続により、電子ジャーナル・電子ブック（インターネットで閲覧する学術雑誌・書籍）や情報検索データベースにアクセスすることができます。

図書館利用ガイダンス、各種データベースや電子ジャーナルの利用講習会を通して、学生の情報リテラシー（活用能力）の養成にも精力的に取り組んでいます。

また、土日・祝日開館、地域住民への施設開放、近隣公共図書館との連携による健康支援事業（めりーらいん）の推進など、様々な学修支援にも積極的に取り組んでいます。

組んでいます。

マルチメディア教室では、1人1台の端末（パソコン）を設置し、どの席からでも授業で使われる動画や画像の資料が見やすくなるよう、前方に大型スクリーン（130インチ）、学生卓に小型モニター（17インチ）をそれぞれ設置しています。この教室のほかにも、無線LANによるレイアウト自在の少人数セミナー室や、常時開放のオープン利用室には、個室感覚で端末（パソコン）を利用できるタイプと、グループ学習での利用ができるタイプがあります。用途に応じていつでも自由に利用できます。

ICTを活用し、eポートフォリオの作成、授業で使用した講義資料などがインターネットを使って、復習できるeラーニングシステムを提供しています。また、レポート作成に使われる文書作成ソフト、医療現場で使

われる医療英語（英単語・イディオム）を修得する英語学習ソフト、医学や看護学の統計解析に欠かせない専用処理ソフトなど、授業や自主学習、問題解決型学修（少人数で課題を達成していく学修手法）で活用できるソフトウェアを数多く用意しています。

様々なご質問にはセンタースタッフが丁寧にお応えし、サポートします。



医学教育センター

医学教育センターは、医学教育に関する情報収集及び分析、教員の教育評価システムの構築及び教員のファカルティ・ディベロップメント（FD）の企画・実施などを行い、医学教育の改善・改革を図ることを目的としています。

センター（大学本館7階）には、教員室、会議室、学生スペースなどを備え、医学教育活動の拠点として活用されています。こうした環境のもとで、本学に最適な教育・学修方法を教員と学生が一緒になって考えていきます。

主な活動としては、カリキュラム改革に向けての調査・研究、教員のFD、学修者評価の質、学修環境の充実、成績不振者に対する総合的な学修支援活動のみならず学修者のニーズに応じた潜在能力の開発支援などが挙げられます。



医心館

充実した学修環境を提供する「医心館」

大学本館に隣接する、グループ学習及び個人学習のいずれにも対応した学修環境を持つ「医心館」は、主に医学部6学年次生及び看護学部4学年次生が国家試験に向けてお互いにディスカッションできるグループ学習の場所として利用可能な41室のセミナー室があります。

セミナー室

国家試験合格に向けてグループ学習をするためのセミナー室を設置。6学年次の4月から医師国家試験が終了するまでの期間、毎日7時から24時まで使用することができます。さらに2023年にはセミナー室を3室増設のほか、冷蔵庫などの備品・什器も新たに導入。さらなる学修環境の充実を図っています。



本館セミナー室

大学本館2階・3階のセミナー室は20室あります。主に3学年次までの学生が使用することができ、グループでのレポート作成やテスト前のグループ学習などのために使用されています。各室の収容人数は10名程度です。使用できる時間は8時30分～22時まで、授業の空き時間や休日にも利用できる自習室の存在は貴重です。

大学本館7階は、医学部5学年次生が使用するセミナー室が2室(グループ学習室:70席、個人ブース室:60席)及び、医学部4学年次生が使用するセミナー室が1室(グループ学習用:36席、個人ブース:14席)が整備されています。3部屋で計180名を収容するこの広大な学習スペースでは、主

に臨床実習や講義終了後のグループ学習やレポート作成などに使用されています。



学生ホール

大学本館3階の学生ホールを「ラーニングコモンズ」としてリノベーションしました。明るく開放的な空間にWi-Fiや、モバイル端末用のコンセントを各机に配置するなど、企画段階から学生の希望や意見を取り入れながらプランニング。自習からグループ学習まで、気軽に自由に活用できます。



本学では各教室、セミナー室にWi-Fiを整備し、授業支援システムAIDLE-KというWEBを使って授業を行うeラーニングを実施しています。講義資料の閲覧、講義の予習や復習、アンケートの回収など幅広く利用されています。学生はパソコン、タブレットを用いて、この環境を積極的に活用しています。

4

- 入学式
- 新入生ガイダンス
- 新入生研修(1学年次)
- 前学期授業開始
- 定期健康診断
- パーモント大学短期留学(6学年次)
- 交通安全講習会



5

- 解剖慰霊祭
- 早期体験実習1a[シミュレーション実習](1学年次)
- 総合試験(5・6学年次)

6

- 早期体験実習1b[看護体験実習](1学年次)

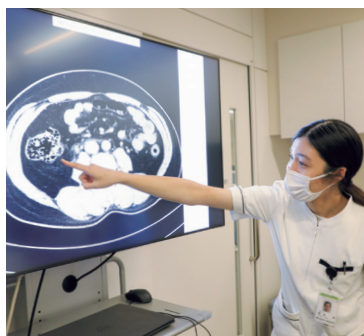


7

- 外来案内実習(2学年次)
- Post-CC OSCE(6学年次)
- 地域医療早期体験実習(4学年次)
- 夏季休業

8

- 夏季休業
- 共用試験CBT(4学年次)
- 西日本医科学生総合体育大会(西医体)
- HMEP ハワイ大学短期留学(5学年次)



9

- 後学期授業開始(1~3学年次)
- 地域包括ケア実習(3学年次)
- 共用試験Pre-CC OSCE(4学年次)

10

- 防災訓練
- 早期体験実習1c[臨床科見学実習](1学年次)
- 後学期授業開始(4~6学年次)
- 白衣式(4学年次)
- 交通安全講習会
- 総合試験(5・6学年次)
- HMEP 国内短期留学(5学年次)〈10月以降〉



11

- 医大祭

12

- 冬季休業

1

- チーム医療実習(2学年次)
- 地域社会医学実習(2学年次)



2

- 医師国家試験
- 南イリノイ大学短期留学
[臨床実習選択コース](5学年次)
- ルール大学短期留学(5学年次)
- コンケン大学短期留学(5学年次)
- ウッチ医科大学短期留学(5学年次)
- ポズナン医科大学短期留学(5学年次)
- タマサート大学チュラボン国際医学部短期留学(5学年次)

3

- 卒業証書・学位授与式
- 医師国家試験合格発表
- 春季休業
- 南イリノイ大学短期留学
[2学年次カリキュラム受講コース](3・4学年次)



1号館(大学本館)



たちばなホール



講義室



総合学術情報センター(図書館)



7号館(医心館)



レストランオレンジ



6号館(体育館)



6号館(運動療育センター)



学生ホール

快適な学生生活のための
設備・施設がそろっています



- ① 1号館(大学本館)
- ② たちばなホール
- ③ レストランオレンジ
- ④ 2号館(研究棟)
- ⑤ 3号館(基礎科学棟)
- ⑥ 4号館(看護学部棟)

- ⑦ 5号館
(総合実験研究棟・動物実験部門)
- ⑧ 6号館
(体育館・運動療育センター)
- ⑨ 7号館(医心館)
- ⑩ C棟(C病棟)・D棟(D病棟)

- ⑪ 雁又グラウンド
(テニスコート・野球場)
- ⑫ 寅山グラウンド
(陸上・サッカー・ラグビー・弓術場)
- ⑬ 保育所(アイキッズハウス)
- ⑭ 病院外来駐車場(立体)

- ⑮ 中央棟(診療棟・A病棟・B病棟)
- ⑯ パスロータリー
- ⑰ アメニティ棟(立石プラザ)
- ⑱ ドクターヘリ格納庫
- ⑲ スターバックスコーヒー

クラブ&サークル活動が盛んなことは、愛知医科大学の伝統です。

学年を越えて趣味や興味が共有できる仲間と出会い、共に熱中できる有意義な時間を過ごせます。



Track and Field Club



Table Tennis Club



Archery Club



Handball Club



Badminton Club



ACSIS Aichi Clinical Skills Improving Society

クラブ&サークル一覧

■ 合気道部
■ アイスホッケー部
■ 弓術部(和弓・洋弓)
■ 軽音楽部

■ 剣道部
■ 硬式庭球部
■ 硬式野球部
■ ゴルフ部
■ サッカー部
■ 水泳部

■ スキー部
■ ソフトテニス部
■ 東洋医学研究会
■ バスケットボール部
■ バドミントン部
■ バレーボール部

■ ハンドボール部
■ ボウリング部
■ ボード部
■ ラグビーフットボール部
■ 陸上競技部
■ ワンダーフォーゲル部

■ HIAMU(Heart in Aichi Medical University)
■ アンサンブル同好会
■ 卓球同好会
■ ボードゲーム同好会
■ ACSIS(Aichi Clinical Skills Improving Society)
■ Medical Science Club(MSC)

(R5.6.1現在)



Kyudo Club



Basketball Club



Volleyball Club



Kendo Club



Soccer Club

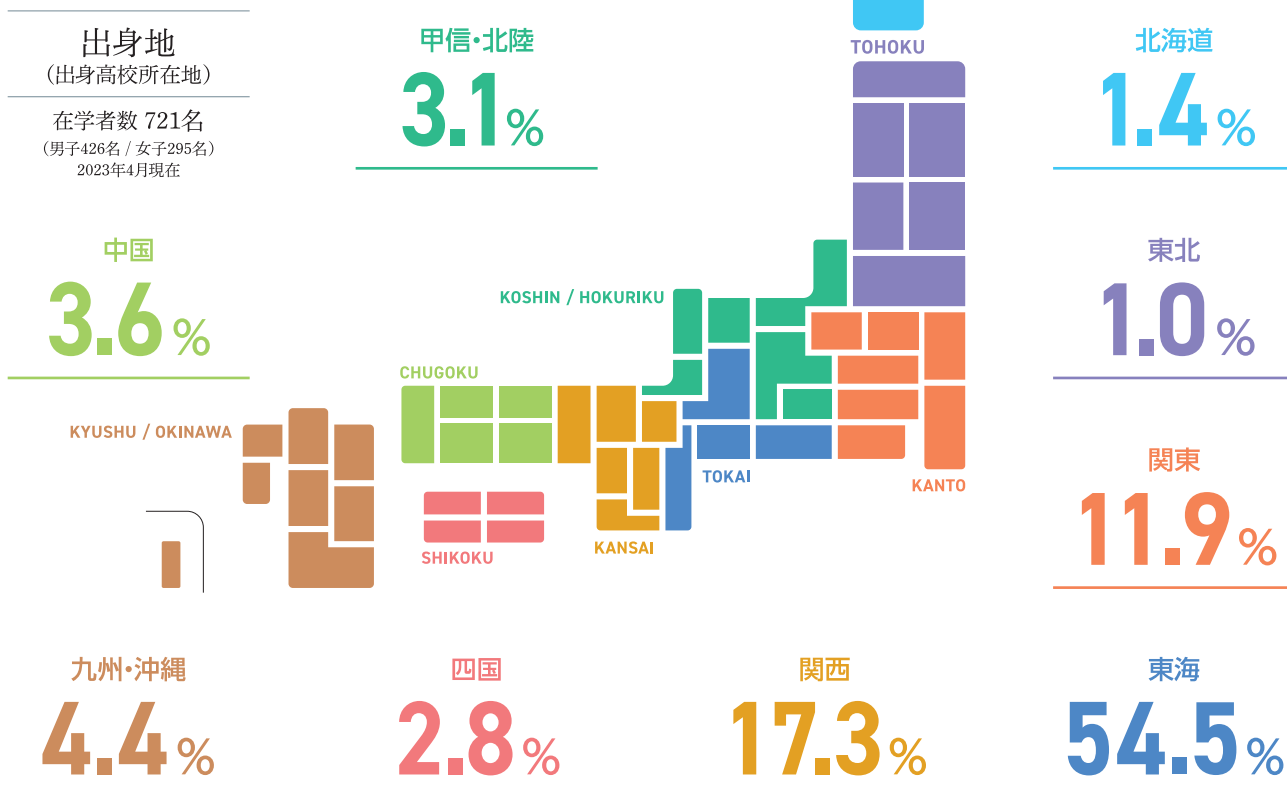


HIAMU Heart in Aichi Medical University

様々なエリアから学生が集まる、全国型の医科大学です

愛知医科大学は設立以来、東海地区はもちろん、

様々な地方から学生が集まる全国型の医科大学であることも特色の一つです。



from CHIBA

帰省や
遠出する時にも
便利な場所です



最寄りの藤が丘駅から
名古屋駅まで約30分で行けるため、
帰省や遠出もしやすい立地です。
また、住まいの近くにはイオンモールや
イケアがあり、休日は気軽に
ショッピングや映画も楽しめます。

4学年次 水上 晃希
(千葉県 安房高校出身)

from WAKAYAMA

長久手市は
治安が良く
とても住みやすいです



一人暮らしに慣れるまで少し時間が
かかりましたが、今では勉強と部活動、
家事をバランス良くこなせています。
長久手市は自然豊かなエリアがある一方、
人が多く栄えているエリアもあり、
とても住みやすいです。

3学年次 線崎 奏夢
(和歌山県 田辺高校出身)

from HIROSHIMA

周辺には
生活に必要な
施設がそろっています



大学と提携している食事付きの
学生マンションに住んでいます。
周辺には生活に必要な施設が
すべてそろっていて、とても便利です。
新しい土地での学生生活は
日々発見があり楽しいです。

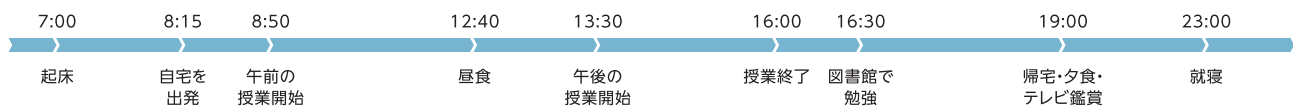
2学年次 末光 渚
(広島県 如水館高校出身)



将来は地域に貢献できる 医師を目指したいです

高校時代のアメリカ留学をきっかけに、国際バカロレア教育を取り入れている玉川学園に編入し、4年間英語での授業を受けてきました。愛知医科大学は国際バカロレア選抜を導入していることと、積極的に国際交流を行っていることから入学を決めました。3学年次にはイギリスのレスター大学が主催する「オンライン医療英語実習コース」に参加しました。実習では医療英語の修得だけでなく、患者さんと接する時の態度や雰囲気作りも学ぶことができ、貴重な経験になりました。現在、医師の偏在や医療格差が問題になっていますが、それを少しでもなくせるよう、将来は地域に貢献できるような医師になりたいと思っています。

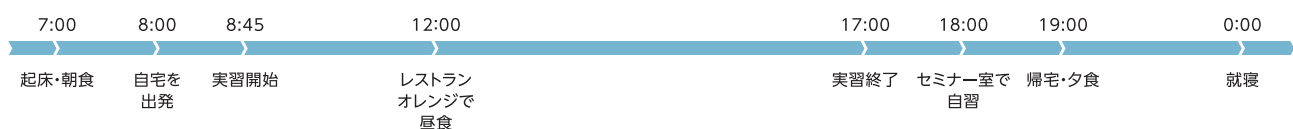
4学年次 片桐 麻衣（東京都 玉川学園高等部出身）



臨床実習での学びや経験を通して 実践力を身につけていきたい

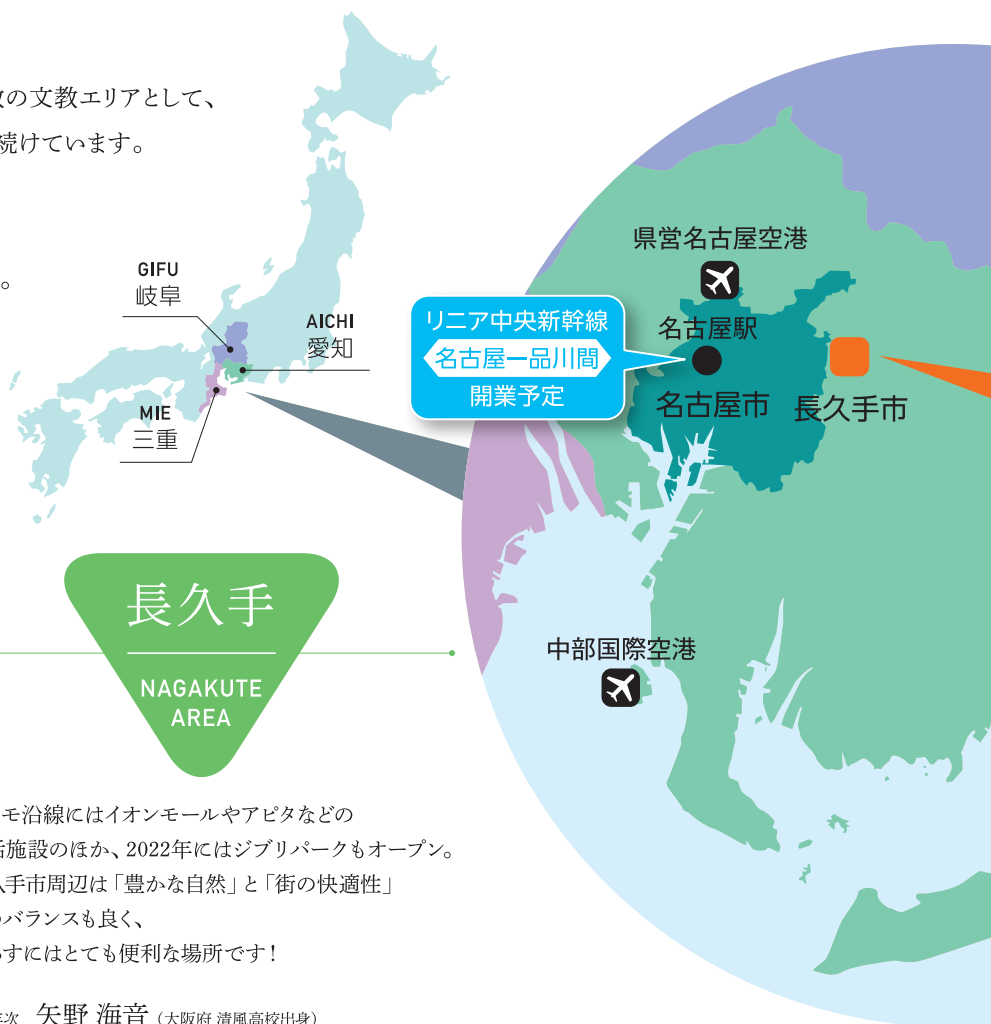
4学年次の秋から臨床実習が始まりました。実際の現場では教科書で学べないことや教科書通りにいかないことが多いと痛感し、一人ひとりの患者さんに寄り添った治療ができる医師になりたいと考えるようになりました。そのためには、これまでに得た知識を実際の臨床に結びつける実践力を身につけることが必要だと思っています。部活動はソフトテニス部に所属し、今でも勉強の息抜きに行くことがあります。臨床実習を行いながら国家試験の勉強を進めるのは忙しく、大変だと感じる時もありますが、充実した学生生活を送れるよう頑張りたいです。

5学年次 渡會 智也（愛知県 南山高校出身）



長久手市は、愛知県内有数の文教エリア 名古屋へのアクセスも快適です

キャンパスのある長久手市は、県内でも有数の文教エリアとして、
そして自然豊かなニュータウンとして発展を続けています。
大学周辺にはカフェやレストラン、
各種生活施設などが充実しているほか、
隣接する名古屋市へのアクセスも快適です。



リニモ沿線にはイオンモールやアビタなどの
生活施設のほか、2022年にはジブリパークもオープン。
長久手市周辺は「豊かな自然」と「街の快適性」
とのバランスも良く、
暮らすにはとても便利な場所です！

1学年次 矢野 海音（大阪府 清風高校出身）

静かな環境の中、 多彩な施設が そろっています

長久手市周辺に続々と
新しい施設やお店が誕生。
ますます
活気づいてきました。



愛・地球博記念公園(モリコロパーク)

2005年に開催された愛知万博長久手会場の跡地に開業した総合公園。2022年11月には園内に「ジブリパーク」の3つのエリアが開園しました。



イオンモール長久手

2016年12月にオープン。併設の「イオンシネマ長久手」では、映画のシーンと連動して座席が動く「D・BOX」を導入したスクリーンも備えています。



IKEA長久手

東海地区での初店舗として2017年10月にオープン。おしゃれなお手頃価格の家具と雑貨が人気のほか、レストランでは北欧料理も楽しめます。

愛知医科大学のある長久手市は、こんな街

愛知医科大学をはじめ市内に4大学、さらに周辺にも多くの大学が集まる県内有数の文教エリアです。最近は大型商業施設も次々とオープンするなど、若いファミリー層からも人気の街として、ますます成長を続けています。豊かな自然と、ニュータウンとしての快適性が共存する長久手市は、じっくり勉学に取り組むのにも、心地良く暮らすのにも適した環境です。

市民の平均年齢の若さ

全国
第1位
日本一若い街
40.2歳

人口の自然増加率
(出生数－死亡数)

全国第10位
第1位
(東海地区)

住みよさランキング2023
「総合評価」

全国第6位
第1位
(東海地区)

参考資料 ●市民の平均年齢(2020年国勢調査) ●住民基本台帳に基づく人口動態(2022年総務省)
●住みよさランキング2023(東洋経済新報社)

長久手&名古屋は
魅力がいっぱい！

名古屋

NAGOYA
AREA

藤が丘駅から名古屋駅や栄など、
都心部へのアクセスが便利なので、
ショッピングや食事などによく出かけます。
また藤が丘駅周辺にも
カフェやファーストフード店が充実。
授業後にも気軽に立ち寄れます！

1学年次 藤渕 望央 (愛知県 南山高校出身)

愛知医科大学
愛知医科大学病院

AICHI
愛知県

リニア中央新幹線が開業予定〈名古屋↔品川 40分〉 ますます便利に、快適に

発展を続ける名古屋駅や栄など、大学周辺から名古屋中心部へのアクセスも便利です。



名古屋駅周辺

JR名古屋駅に直結する「JRセントラルタ
ワーズ」「JRゲートタワー」をはじめ、利便施
設が充実。さらにリニア中央新幹線開通に
向けて、ますます発展を続けています。



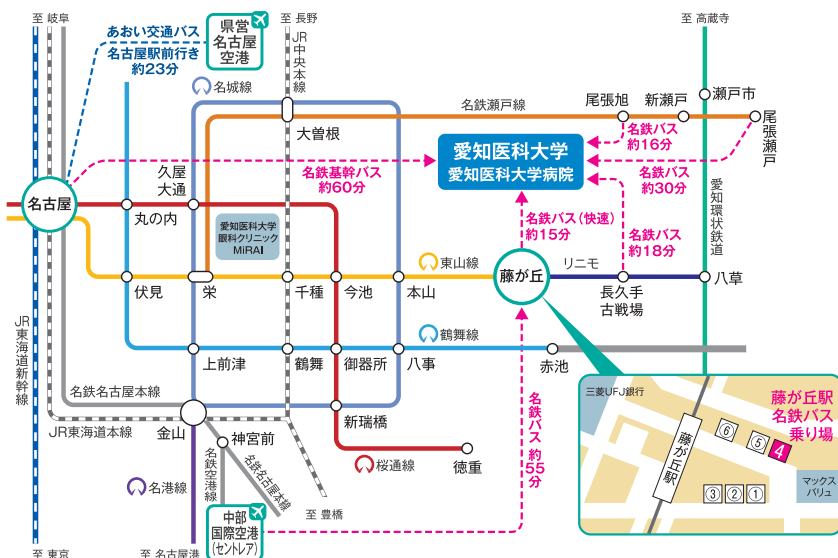
栄

デパートやショップなどが集結する栄エリア。
2020年には「中部電力 MIRAI TOWER」
(旧・名古屋テレビ塔)と久屋大通公園がリ
ニューアルし、注目を集めています。



藤が丘

スターバックスコーヒーや成城石井が入る
商業施設「藤が丘effe」のほか、駅前には飲
食店やスーパーマーケット、書店、ヘアサロ
ンなどがそろっています。



リニモ(東部丘陵線)

磁気浮上式システムによる日本初の本格的な営業
路線として開通。名古屋
市の藤が丘駅と豊田市の
八草駅を結んでいます。



「藤が丘」駅から名鉄バスで約15分。

地下鉄東山線「藤が丘」駅から
愛知医科大学までは、名鉄バスで約15分です。



UNIVERSITY
ACCREDITED
2021.4~2028.3

財団法人大学基準協会
「大学基準適合認定」



愛知医科大学 医学部

〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1

TEL:0561-62-3311(代表)

0561-61-5315(直通)

FAX:0561-62-6690

URL <https://www.aichi-med-u.ac.jp/>